

電子情報システム専攻

＜前期課程＞

科目区分	授業形態	授業科目	担当教員	単位数	開講時期		
					分野		
					電気工学	電子工学	情報・通信工学
基礎科目	セミナー 講義・演習	電磁理論	各教員 (電子情報)	3	1年前期		
		量子理論	各教員 (電子情報)	3	1年前期		
電気物理数学		各教員 (電子情報)	3	1年前期			
離散システム論		各教員 (電子情報)	3	1年前期			
信号処理・波形伝送論		各教員 (電子情報)	3	1年前期			
データ解析処理論		各教員 (電子情報)	3	1年前期			
主専攻科目	セミナー	エネルギーシステムセミナーⅠⅠA	大久保 仁 教授, 鈴置 保雄 教授, 松村 年郎 教授, 遠藤 奎将 教授, 加藤 文佳 准教授, 早川 直樹 准教授, 横水 康伸 准教授, 森 竜雄 准教授, 田畑 彰守 講師	2	1年前期, 2年前期		
		エネルギーシステムセミナーⅠⅠB	同上	2	1年後期, 2年後期		
		エネルギーシステムセミナーⅠⅠC	同上	2	1年前期, 2年前期		
		エネルギーシステムセミナーⅠⅠD	同上	2	1年後期, 2年後期		
		エネルギーシステムセミナーⅡⅠA	同上	2	1年前期, 2年前期		
		エネルギーシステムセミナーⅡⅠB	同上	2	1年後期, 2年後期		
		エネルギーシステムセミナーⅡⅠC	同上	2	1年前期, 2年前期		
		エネルギーシステムセミナーⅡⅠD	同上	2	1年後期, 2年後期		
		プラズマエネルギー理工学セミナー1A	同上	2	1年前期, 2年前期		
		プラズマエネルギー理工学セミナー1B	東井 和夫 教授, 渡利 徹夫 教授, 庄司 多津男 准教授, 大野 哲晴 准教授, 熊澤 隆平 准教授	2	1年後期, 2年後期		
		プラズマエネルギー理工学セミナー1C	同上	2	1年前期, 2年前期		
		プラズマエネルギー理工学セミナー1D	同上	2	1年後期, 2年後期		
		エネルギー材料デバイス工学セミナー1A	同上	2	1年前期, 2年前期		
		エネルギー材料デバイス工学セミナー1B	高井 吉明 教授, 吉田 隆 准教授	2	1年後期, 2年後期		
		エネルギー材料デバイス工学セミナー1C	同上	2	1年前期, 2年前期		
		エネルギー材料デバイス工学セミナー1D	同上	2	1年後期, 2年後期		
		宇宙電磁環境工学セミナーⅠⅠA	同上	2	1年前期, 2年前期		
		宇宙電磁環境工学セミナーⅠⅠB	小川 忠彦 教授, 荻野 瀧樹 教授, 西谷 望 准教授, 長濱 智生 准教授	2	1年後期, 2年後期		
		宇宙電磁環境工学セミナーⅠⅠC	同上	2	1年前期, 2年前期		
		宇宙電磁環境工学セミナーⅠⅠD	同上	2	1年後期, 2年後期		
		宇宙電磁環境工学セミナーⅡⅠA	同上	2	1年前期, 2年前期		
		宇宙電磁環境工学セミナーⅡⅠB	同上	2	1年後期, 2年後期		
		宇宙電磁環境工学セミナーⅡⅠC	同上	2	1年前期, 2年前期		
		宇宙電磁環境工学セミナーⅡⅠD	同上	2	1年後期, 2年後期		
		集積プロセスセミナーⅠⅠA	河野 明廣 教授, 堀 勝 教授, 林 俊雄 教授, 関根 誠 教授, 豊田 浩孝 教授, 佐々木 浩一 准教授, 丹司 敬義 准教授	2		1年前期, 2年前期	
		集積プロセスセミナーⅠⅠB	同上	2		1年後期, 2年後期	
		集積プロセスセミナーⅠⅠC	同上	2		1年前期, 2年前期	
		集積プロセスセミナーⅠⅠD	同上	2		1年後期, 2年後期	
		集積プロセスセミナーⅡⅠA	同上	2		1年前期, 2年前期	
		集積プロセスセミナーⅡⅠB	同上	2		1年後期, 2年後期	
		集積プロセスセミナーⅡⅠC	同上	2		1年前期, 2年前期	
		集積プロセスセミナーⅡⅠD	同上	2		1年後期, 2年後期	
		情報デバイスセミナーⅠⅠA	網島 滋 教授, 岩田 聡 教授, 澤木 宣彦 教授, 中里 和郎 教授, 山口 雅史 准教授, 内山 剛 准教授, 田中 成泰 講師	2		1年前期, 2年前期	
		情報デバイスセミナーⅠⅠB	同上	2		1年後期, 2年後期	
		情報デバイスセミナーⅠⅠC	同上	2		1年前期, 2年前期	
		情報デバイスセミナーⅠⅠD	同上	2		1年後期, 2年後期	
		情報デバイスセミナーⅡⅠA	同上	2		1年前期, 2年前期	
		情報デバイスセミナーⅡⅠB	同上	2		1年後期, 2年後期	
		情報デバイスセミナーⅡⅠC	同上	2		1年前期, 2年前期	
		情報デバイスセミナーⅡⅠD	同上	2		1年後期, 2年後期	
		ナノデバイス工学セミナー1A	同上	2		1年前期, 2年前期	
		ナノデバイス工学セミナー1B	水谷 孝 教授	2		1年後期, 2年後期	
		ナノデバイス工学セミナー1C	同上	2		1年前期, 2年前期	
		ナノデバイス工学セミナー1D	同上	2		1年後期, 2年後期	
		量子集積デバイス工学セミナー1A	同上	2		1年前期, 2年前期	
		量子集積デバイス工学セミナー1B	藤巻 朗 教授	2		1年後期, 2年後期	
		量子集積デバイス工学セミナー1C	井上 真澄 講師	2		1年前期, 2年前期	
		量子集積デバイス工学セミナー1D	同上	2		1年後期, 2年後期	
光子工学セミナー1A	同上	2		1年前期, 2年前期			
光子工学セミナー1B	川瀬 晃道 教授	2		1年後期, 2年後期			
光子工学セミナー1C	同上	2		1年前期, 2年前期			
光子工学セミナー1D	同上	2		1年後期, 2年後期			
電子情報通信セミナーⅠⅠA	谷本 正幸 教授, 大熊 繁 教授, 片山 正昭 教授, 佐藤 健一 教授, 藤井 俊彰 准教授, 山里 敬也 准教授, 道木 慎二 准教授, 長谷川 浩 准教授	2			1年前期, 2年前期		
電子情報通信セミナーⅠⅠB	同上	2			1年後期, 2年後期		
電子情報通信セミナーⅠⅠC	同上	2			1年前期, 2年前期		
電子情報通信セミナーⅠⅠD	同上	2			1年後期, 2年後期		
電子情報通信セミナーⅡⅠA	同上	2			1年前期, 2年前期		
電子情報通信セミナーⅡⅠB	同上	2			1年後期, 2年後期		
電子情報通信セミナーⅡⅠC	同上	2			1年前期, 2年前期		
電子情報通信セミナーⅡⅠD	同上	2			1年後期, 2年後期		
コンピュータ工学セミナーⅠⅠA	島田 俊夫 教授	2			1年前期, 2年前期		
コンピュータ工学セミナーⅠⅠB	佐藤 理史 教授	2			1年後期, 2年後期		
コンピュータ工学セミナーⅠⅠC	河口 信夫 准教授	2			1年前期, 2年前期		
コンピュータ工学セミナーⅠⅠD	同上	2			1年後期, 2年後期		

科目区分	授業形態	授業科目	担当教員	単位数	開講時期			
					分野			
					電気工学	電子工学	情報・通信工学	
主 専 攻 科 目	セ ミ ナ ー	コンピュータ工学セミナーⅡ1A	島田 俊夫 教授 佐藤 理史 教授 河口 信夫 准教授	2			1年前期, 2年前期	
		コンピュータ工学セミナーⅡ1B		2			1年後期, 2年後期	
		コンピュータ工学セミナーⅡ1C		2			1年前期, 2年前期	
		コンピュータ工学セミナーⅡ1D		2			1年後期, 2年後期	
		数理システム工学セミナー1A	安藤 秀樹 教授 岩田 哲 准教授	2			1年前期, 2年前期	
		数理システム工学セミナー1B		2			1年後期, 2年後期	
		数理システム工学セミナー1C		2			1年前期, 2年前期	
		数理システム工学セミナー1D		2			1年後期, 2年後期	
		複雑システム工学セミナー1A	古橋 武 教授, 吉川 大弘 准教授	2			1年前期, 2年前期	
		複雑システム工学セミナー1B		2			1年後期, 2年後期	
		複雑システム工学セミナー1C		2			1年前期, 2年前期	
		複雑システム工学セミナー1D		2			1年後期, 2年後期	
		講 義	エネルギーシステム工学特論	松村 年郎 教授, 横水 康伸 准教授	2	1年前期, 2年前期		
			エネルギー機器工学特論	大久保 仁 教授, 遠藤 奎将 教授	2	1年後期, 2年後期		
	エネルギー環境工学特論		鈴置 保雄 教授, 加藤 文佳 准教授	2	1年後期, 2年後期			
	エネルギー材料工学特論		森 竜雄 准教授, 田畑 彰守 講師	2	1年後期, 2年後期			
	プラズマ物性基礎論		庄司 多津男 准教授	2	1年前期, 2年前期			
	プラズマエネルギー応用工学特論		大野 哲靖 准教授	2	1年後期, 2年後期			
	超伝導工学基礎論		高井 吉明 教授, 吉田 隆 准教授	2	1年前期, 2年前期			
	超伝導応用工学特論		大久保 仁 教授, 早川 直樹 准教授	2	1年後期, 2年後期			
	宇宙電磁環境学特論		小川 忠彦 教授, 西谷 望 准教授	2	1年後期, 2年後期			
	宇宙情報処理特論		萩野 瀧樹 教授, 長濱 智生 准教授	2	1年前期, 2年前期			
	プロセスプラズマ工学特論		豊田 浩孝 教授	2		1年前期, 2年前期		
	電磁応用計測特論		河野 明廣 教授, 林 俊雄 教授, 佐々木 浩一 准教授	2		1年後期, 2年後期		
	ナノプロセス工学特論		堀 勝 教授, 関根 誠 教授	2		1年後期, 2年後期		
	粒子線工学特論		丹司 敬義 准教授	2		1年前期, 2年前期		
	磁性体工学特論		網島 滋 教授, 岩田 聡 教授, 加藤 剛志 准教授	2		1年前期, 2年前期		
	半導体工学特論		澤木 宣彦 教授, 山口 雅史 准教授, 田中 成泰 講師	2		1年前期, 2年前期		
	情報デバイス工学特論		中里 和郎 教授, 内山 剛 准教授	2		1年前期, 2年前期		
	ナノデバイス工学特論		水谷 孝 教授	2		1年後期, 2年後期		
	量子集積デバイス工学特論		藤巻 朗 教授, 井上 真澄 講師	2		1年前期, 2年前期		
	光子工学特論		川瀬 晃道 教授	2		2年後期		
	画像信号処理特論		谷本 正幸 教授, 藤井 俊彰 准教授	2			1年前期, 2年前期	
	信号伝送検出理論特論		片山 正昭 教授, 山里 敬也 准教授	2			1年後期, 2年後期	
	情報ネットワーク特論		佐藤 健一 教授, 長谷川 浩 准教授	2			1年前期, 2年前期	
	計算機アーキテクチャ特論		安藤 秀樹 教授	2			2年後期	
	システムLSI特論		島田 俊夫 教授	3			1年前期, 2年前期	
	システム制御工学特論		大熊 繁 教授, 道木 慎二 准教授	2			1年後期, 2年後期	
	数理システム工学特論		岩田 哲 准教授	2			1年前期	
	複雑システム工学特論		古橋 武 教授, 吉川 大弘 准教授	2			1年前期	
	システム設計工学特論	古橋 武 教授, 吉川 大弘 准教授	2			2年後期		
	知的情報システム特論	佐藤 理史 教授, 河口 信夫 准教授	2			1年後期, 2年後期		
電子情報システム特別講義Ⅰ	非常勤講師 (電子情報)	1			1年前期, 2年前期			
電子情報システム特別講義Ⅱ	非常勤講師 (電子情報)	1			1年後期, 2年後期			
実 験 ・ 演 習	エネルギーシステム特別実験及び演習	大久保 仁 教授, 鈴置 保雄 教授, 松村 年郎 教授, 遠藤 奎将 教授, 早川 直樹 准教授, 横水 康伸 准教授, 森 竜雄 准教授, 田畑 彰守 講師, 阪岡 大輔 助教, 加藤 克巳 助教, 兼子 一重 助教, 小島 寛樹 助教	2	1年前期後期				
	極限エネルギー科学特別実験及び演習	高井 吉明 教授, 大野 哲靖 准教授, 吉田 隆 准教授, 一野 祐亮 助教	2	1年前期後期				

科目区分	授業形態	授業科目	担当教員	単位数	開講時期			
					分野			
					電気工学	電子工学	情報・通信工学	
主専攻科目	主分野科目	実験・演習	宇宙電磁環境工学特別実験及び演習	小川 忠彦 教授, 萩野 満樹 教授, 西谷 望 准教授, 長濱 智生 准教授, 大塚 雄一 助教, 前澤 裕之 助教, 三好 由純 助教, 梶田 隆行 助教	2	1年前期後期		
			集積プロセス特別実験及び演習	河野 明廣 教授, 堀 勝 教授, 豊田 浩孝 教授, 丹司 敬義 教授, 佐々木 浩一 准教授, 荒巻 光利 助教, 石島 達夫 助教, 川崎 忠寛 助教	2		1年前期後期	
			情報デバイス特別実験及び演習	綱島 滋 教授, 岩田 聡 教授, 澤木 宣彦 教授, 中里 和郎 教授, 山口 雅史 准教授, 内山 剛 准教授, 田中 成泰 准教授, 加藤 剛志 准教授, 本田 善央 助教, 宇野 重康 助教	2		1年前期後期	
			量子デバイス特別実験及び演習	水谷 孝 教授, 藤巻 朋 教授, 井上 真澄 講師, 大野 雄高 助教, 岸本 茂 助教, 赤池 宏之 助教	2		1年前期後期	
			電子情報通信特別実験及び演習	谷本 正幸 教授, 大熊 繁 教授, 片山 正昭 教授, 佐藤 健一 教授, 藤井 俊彰 准教授, 山里 敬也 准教授, 道木 慎二 准教授, 長谷川 浩 准教授, 園道 知博 助教	2			1年前期後期
			コンピュータ工学特別実験及び演習	島田 俊夫 教授, 佐藤 理史 教授, 河口 信夫 准教授, 小林 良太郎 助教, 藤田 篤 助教	2			1年前期後期
			数理情報システム特別実験及び演習	安藤 秀樹 教授, 古橋 武 教授, 岩田 哲 准教授, 吉川 大弘 准教授	2			1年前期後期
他分野科目	セミナー 講義 実験・演習	当該専攻の主専攻科目の中で、基礎科目と主分野科目に該当しない科目						
副専攻科目	セミナー 講義 実験・演習	当該専攻以外の工学研究科専攻で開講されている授業科目のうち、指導教員並びに専攻長が認めた科目						
総合工学科目	高度総合工学創造実験	松村 年郎 教授	3	1年前期後期, 2年前期後期				
	研究インターンシップ	松村 年郎 教授	2~4	1年前期後期, 2年前期後期				
	最先端理工学特論	田淵 雅夫 准教授	1	1年前期後期, 2年前期後期				
	最先端理工学実験	山根 隆 教授, 田淵 雅夫 准教授	1	1年前期後期, 2年前期後期				
	コミュニケーション学	古谷 礼子 准教授	1	1年後期, 2年後期				
	ベンチャービジネス特論Ⅰ	田淵 雅夫 准教授	2	1年前期, 2年前期				
	ベンチャービジネス特論Ⅱ	田淵 雅夫 准教授, 枝川 明歌 客員教授	2	1年後期, 2年後期				
	学外実習A	各教員 (電子情報システム)	1	1年前期後期, 2年前期後期				
	学外実習B	各教員 (電子情報システム)	1	1年前期後期, 2年前期後期				
他研究科等科目		当該専攻とは異なる分野に関する学部科目, あるいは他研究科, 他大学院で開講されている授業科目で指導教員並びに専攻長認めた科目						
研究指導								
履修方法及び研究指導								
1. 以下の一～四の各項を満たし、合計30単位以上 一 主専攻科目: イ 基礎科目3単位以上 ロ 主分野科目の中から、セミナー4単位、講義6単位、実験・演習2単位を含む12単位以上 ハ 他分野科目の中から2単位以上 二 副専攻科目の中から2単位以上 三 総合工学科目は4単位までを修了要件単位をして認め、4単位を超えた分は随意科目の単位として扱う 四 他研究科等科目のうち、学部科目は随意科目として扱う 2. 研究指導については、専攻において定めるところにより、指導教員の指示によること								

電子情報システム専攻

＜後期課程＞

科目区分	授業形態	授業科目	担当教員	単位数	開講時期		
					分野		
					電気工学	電子工学	情報・通信工学
主 専 攻 科 目	セ ミ ナ ー	エネルギーシステムセミナーⅠ 2 A	大久保 仁 教授, 鈴置 保雄 教授	2	1年前期		
		エネルギーシステムセミナーⅠ 2 B	大久保 仁 教授, 松村 年郎 教授, 遠藤 奎将 教授, 加藤 丈佳 准教授	2	1年後期		
		エネルギーシステムセミナーⅠ 2 C	早川 直樹 准教授, 横水 康伸 准教授, 森 竜雄 准教授, 田畑 彰守 講師	2	2年前期		
		エネルギーシステムセミナーⅠ 2 D		2	2年後期		
		エネルギーシステムセミナーⅠ 2 E		2	3年前期		
		エネルギーシステムセミナーⅡ 2 A	大久保 仁 教授, 鈴置 保雄 教授	2	1年前期		
		エネルギーシステムセミナーⅡ 2 B	大久保 仁 教授, 松村 年郎 教授, 遠藤 奎将 教授, 加藤 丈佳 准教授	2	1年後期		
		エネルギーシステムセミナーⅡ 2 C	早川 直樹 准教授, 横水 康伸 准教授, 森 竜雄 准教授, 田畑 彰守 講師	2	2年前期		
		エネルギーシステムセミナーⅡ 2 D		2	2年後期		
		エネルギーシステムセミナーⅡ 2 E		2	3年前期		
		プラズマエネルギー理工学セミナー 2 A		2	1年前期		
		プラズマエネルギー理工学セミナー 2 B	東井 和夫 教授, 渡利 徹夫 教授, 庄司 多津男 准教授, 大野 哲靖 准教授, 熊沢 隆平 准教授	2	1年後期		
		プラズマエネルギー理工学セミナー 2 C		2	2年前期		
		プラズマエネルギー理工学セミナー 2 D		2	2年後期		
		プラズマエネルギー理工学セミナー 2 E		2	3年前期		
		エネルギー材料デバイス工学セミナー 2 A		2	1年前期		
		エネルギー材料デバイス工学セミナー 2 B		2	1年後期		
		エネルギー材料デバイス工学セミナー 2 C	高井 吉明 教授, 吉田 隆 准教授	2	2年前期		
		エネルギー材料デバイス工学セミナー 2 D		2	2年後期		
		エネルギー材料デバイス工学セミナー 2 E		2	3年前期		
		宇宙電磁環境工学セミナー 2 A		2	1年前期		
		宇宙電磁環境工学セミナー 2 B		2	1年後期		
		宇宙電磁環境工学セミナー 2 C	小川 志彦 教授, 荻野 瀧樹 教授, 西谷 望 准教授, 長濱 智生 准教授	2	2年前期		
		宇宙電磁環境工学セミナー 2 D		2	2年後期		
		宇宙電磁環境工学セミナー 2 E		2	3年前期		
		集積プロセスセミナーⅠ 2 A		2		1年前期	
		集積プロセスセミナーⅠ 2 B	河野 明廣 教授, 堀 勝 教授, 豊田 浩孝 教授, 佐々木 浩一 准教授, 丹司 敬義 准教授	2		1年後期	
		集積プロセスセミナーⅠ 2 C		2		2年前期	
		集積プロセスセミナーⅠ 2 D		2		2年後期	
		集積プロセスセミナーⅠ 2 E		2		3年前期	
		集積プロセスセミナーⅡ 2 A		2		1年前期	
		集積プロセスセミナーⅡ 2 B	河野 明廣 教授, 堀 勝 教授, 豊田 浩孝 教授, 佐々木 浩一 准教授, 丹司 敬義 准教授	2		1年後期	
		集積プロセスセミナーⅡ 2 C		2		2年前期	
		集積プロセスセミナーⅡ 2 D		2		2年後期	
		集積プロセスセミナーⅡ 2 E		2		3年前期	
		情報デバイスセミナーⅠ 2 A		2		1年前期	
		情報デバイスセミナーⅠ 2 B	網島 滋 教授, 岩田 聡 教授, 澤木 宣彦 教授, 中里 和郎 教授, 山口 雅史 准教授, 内山 剛 准教授, 田中 成泰 講師	2		1年後期	
		情報デバイスセミナーⅠ 2 C		2		2年前期	
		情報デバイスセミナーⅠ 2 D		2		2年後期	
		情報デバイスセミナーⅠ 2 E		2		3年前期	
		情報デバイスセミナーⅡ 2 A	網島 滋 教授, 岩田 聡 教授, 澤木 宣彦 教授, 中里 和郎 教授, 山口 雅史 准教授, 内山 剛 准教授, 田中 成泰 講師	2		1年前期	
		情報デバイスセミナーⅡ 2 B		2		1年後期	
		情報デバイスセミナーⅡ 2 C		2		2年前期	
		情報デバイスセミナーⅡ 2 D		2		2年後期	
		情報デバイスセミナーⅡ 2 E		2		3年前期	
		ナノデバイス工学セミナー 2 A		2		1年前期	
		ナノデバイス工学セミナー 2 B	水谷 孝 教授	2		1年後期	
		ナノデバイス工学セミナー 2 C		2		2年前期	
		ナノデバイス工学セミナー 2 D		2		2年後期	
		ナノデバイス工学セミナー 2 E		2		3年前期	
量子集積デバイス工学セミナー 2 A		2		1年前期			
量子集積デバイス工学セミナー 2 B	藤巻 明 教授	2		1年後期			
量子集積デバイス工学セミナー 2 C	井上 真澄 講師	2		2年前期			
量子集積デバイス工学セミナー 2 D		2		2年後期			
量子集積デバイス工学セミナー 2 E		2		3年前期			
光子工学セミナー 2 A		2		1年前期			
光子工学セミナー 2 B	川瀬 晃道 教授	2		1年後期			
光子工学セミナー 2 C		2		2年前期			
光子工学セミナー 2 D		2		2年後期			
光子工学セミナー 2 E		2		3年前期			
電子情報通信セミナーⅠ 2 A	谷本 正幸 教授, 大熊 繁 教授, 片山 正昭 教授, 佐藤 健一 教授, 藤井 俊彰 准教授, 山里 敬也 准教授, 道木 慎二 准教授, 長谷川 浩 准教授	2		1年前期			
電子情報通信セミナーⅠ 2 B		2		1年後期			
電子情報通信セミナーⅠ 2 C		2		2年前期			
電子情報通信セミナーⅠ 2 D		2		2年後期			
電子情報通信セミナーⅠ 2 E		2		3年前期			

科目区分	授業形態	授業科目	担当教員	単位数	開講時期		
					分野		
					電気工学	電子工学	情報・通信工学
主 専 攻 科 目	セ ミ ナ ー	電子情報通信セミナーⅡ 2 A	谷本 正幸 教授, 大熊 繁 教授, 片山 正昭 教授, 佐藤 健一 教授, 藤井 俊彰 准教授, 山里 敬也 准教授, 道木 慎二 教授	2			1年前期
		電子情報通信セミナーⅡ 2 B		2			1年後期
		電子情報通信セミナーⅡ 2 C		2			2年前期
		電子情報通信セミナーⅡ 2 D		2			2年後期
		電子情報通信セミナーⅡ 2 E		2			3年前期
		コンピュータ工学セミナーⅠ 2 A	島田 俊夫 教授 佐藤 理史 教授	2			1年前期
		コンピュータ工学セミナーⅠ 2 B		2			1年後期
		コンピュータ工学セミナーⅠ 2 C		2			2年前期
		コンピュータ工学セミナーⅠ 2 D		2			2年後期
		コンピュータ工学セミナーⅠ 2 E		2			3年前期
		コンピュータ工学セミナーⅡ 2 A	島田 俊夫 教授 佐藤 理史 教授	2			1年前期
		コンピュータ工学セミナーⅡ 2 B		2			1年後期
		コンピュータ工学セミナーⅡ 2 C		2			2年前期
		コンピュータ工学セミナーⅡ 2 D		2			2年後期
		コンピュータ工学セミナーⅡ 2 E		2			3年前期
		数理システム工学セミナー 2 A	安藤 秀樹 教授 若田 哲 准教授	2			1年前期
		数理システム工学セミナー 2 B		2			1年後期
		数理システム工学セミナー 2 C		2			2年前期
		数理システム工学セミナー 2 D		2			2年後期
		数理システム工学セミナー 2 E		2			3年前期
複雑システム工学セミナー 2 A	古橋 武 教授 吉川 大弘 准教授	2			1年前期		
複雑システム工学セミナー 2 B		2			1年後期		
複雑システム工学セミナー 2 C		2			2年前期		
複雑システム工学セミナー 2 D		2			2年後期		
複雑システム工学セミナー 2 E		2			3年前期		
副専攻科目	セミナー 講義 実験・演習	当該専攻以外の工学研究科専攻で開講されている授業科目のうち、指導教員並びに専攻長が認めた科目					
総合工学科目		実験指導体験実習 1	松村 年郎 教授	1			1年前期後期, 2年前期後期
		実験指導体験実習 2	山根 隆 教授 田淵 雅夫 准教授	1			1年前期後期, 2年前期後期
他研究科等科目		当該専攻とは異なる分野に関する学部科目, あるいは他研究科, 他大学院で開講されている授業科目で指導教員並びに専攻長が認めた科目					
研究指導							
履修方法及び研究指導							
<p>1. 上記の授業科目及び前期課程の授業科目（既修のものを除く）の中から8単位以上 ただし、上表の主専攻科目セミナーの中から4単位以上</p> <p>2. 研究指導については、専攻において定めるところにより、指導教員の指示によること</p>							

3. 電子情報システム専攻 電子工学分野

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義	前期課程	前期課程
	電磁理論 (3単位)		
対象専攻・分野 開講時期	電気工学分野 1年前期	電子工学分野 1年前期	情報・通信工学分野 1年前期
教員	各教員(電気工学) 各教員(電子工学) 各教員(情報通信)		
備考			
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>エネルギーからエレクトロニクスに至る広範な応用の基盤となっている電磁気学についてその理解を深め、「使える電磁気学」としての実践的活用方法を身につけることを目的とする。そのため、解法が示されていない種々の具体的課題についてグループで取り組み、電磁理論をベースに考察・調査報告・討論を重ねて選択課題の解決をめざす。</p>			
<p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>電磁気学、真空電子工学、高電圧工学、プラズマ工学、計算機リテラシ</p>			
<p>●授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 概要説明、グループ分け、課題選択 2. 選択課題に関連する基礎理論および関連文献調査 3. 調査結果の中間報告・討論 4. さまざまな手法を用いた解析・検証 5. 選択課題についての最終的な発表と討論 			
<p>●教科書</p>			
<p>●参考書</p>			
<p>●成績評価の方法</p> <p>レポートあるいは発表会</p>			

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義	前期課程	前期課程
	量子理論 (3単位)		
対象専攻・分野 開講時期	電気工学分野 1年前期	電子工学分野 1年前期	情報・通信工学分野 1年前期
教員	各教員(電気工学) 各教員(電子工学) 各教員(情報通信)		
備考			
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>初等量子力学を習得した学生に対して、量子力学の更なる理解を深めるために、基礎からより高度な内容まで講義をすることで、実際の電子材料への応用力を身につけるようにする。また、計算機によるシミュレーション演習・実験を通して、電子の動きや波動関数を視覚化することで実際の材料内で起こっている現象を予測できるようにする。</p>			
<p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>電気物性基礎論、固体電子工学、磁性体工学、電磁気学</p>			
<p>●授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎量子論(光・電子の二重性、シュレディンガー方程、不確定性原理、調和振動子、井戸型ポテンシャル、水素原子モデル、ベクトルの対角化) 2. 電子と電磁界との相互作用-材料評価- 3. 電子のスピン、角運動量(相対論的電子) 4. 散乱(ラザフォード散乱、散乱問題における行列要素) 5. 多粒子系(ボーズ粒子、フェルミ粒子、フォノン、第二量子化) 6. 多体問題(トーマス-フェルミ近似、自己無撞着計算-MOSFET) 			
<p>●教科書</p>			
<p>●参考書</p> <p>J.W.Ziman Elements of Advanced Quantum Theory</p>			
<p>●成績評価の方法</p> <p>レポートあるいは試験</p>			

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義	前期課程	前期課程
	電気物理数学 (3単位)		
対象専攻・分野 開講時期	電気工学分野 1年前期	電子工学分野 1年前期	情報・通信工学分野 1年前期
教員	各教員(電気工学) 各教員(電子工学) 各教員(情報通信)		
備考			
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学部で学んだ解析的な数学の知識を確かなものとし発展させる。 2. 主要な数学的手法を電気電子工学にかかわる種々の物理現象に適用し、その共通性と手法の持つ物理的な意味を理解して、それを使いこなす力をつける。 3. 物理現象をどのようにモデル化し数学的解析を可能にするかを学ぶ。 4. 主に計算機を用いた演習、シミュレーションにより、数値例や結果の可視化をとおして現象と解析手法の直感的理解をめざし、学んだ手法を使いこなす力をつける。 			
<p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>数学1、数学2、電磁気学、電気物性基礎論、電気回路論、電子回路工学</p>			
<p>●授業内容</p> <p>I 偏微分方程式の境界値問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・固有値と固有関数展開 ・グリーン関数の考え方 ・変分法の考え方 <p>II 電気回路現象のモデル化と解析</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 電子回路シミュレーション <ul style="list-style-type: none"> ・デバイスのモデル化 ・代数方程式、常微分方程式(線形、非線形)の数値解法 ・定常および過渡応答解析 2. 分布定常回路シミュレーション <ul style="list-style-type: none"> ・進行波現象のモデル化(ベルゲロン法) ・波動方程式の数値解法 ・汎用解析プログラムによる進行波解析 			
<p>●教科書</p>			
<p>●参考書</p>			
<p>●成績評価の方法</p>			

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義	前期課程	前期課程
	離散システム論 (3単位)		
対象専攻・分野 開講時期	電気工学分野 1年前期	電子工学分野 1年前期	情報・通信工学分野 1年前期
教員	各教員(電気工学) 各教員(電子工学) 各教員(情報通信)		
備考			
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>近年の高度な離散システムは複雑なデジタル回路として実現されている。デジタル回路設計技術は、現在では、その専門家のみならず、システム設計者にも広く要求される技術であり、本専攻の大学院生が身につけるべき必須の技術である。本講義では、学部で学習した内容に比べ、より高度かつ詳細な設計の理論と実践を学ぶ。</p>			
<p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>情報基礎論第1及び演習、電子情報回路工学及び演習</p>			
<p>●授業内容</p> <p>I. 講義</p> <ol style="list-style-type: none"> 1-2. 電氣的性質、ブール代数 3-6. 組み合わせ回路の解析・設計 7. 中間試験 8-12. 順序回路の解析・設計 13-14. メモリ 15. 期末試験 <p>II. 演習</p> <p>論理設計ツール(Xilinx ISE)を使ったゲートレベル設計を行う。</p>			
<p>●教科書</p>			
<p>●参考書</p> <p>なし</p>			
<p>●成績評価の方法</p> <p>試験、宿題、演習、発表</p>			

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義	前期課程	前期課程
	信号処理・波形伝送論 (3単位)		
対象専攻・分野 開講時期	電気工学分野 1年前期	電子工学分野 1年前期	情報・通信工学分野 1年前期
教員	各教員(電気工学) 各教員(電子工学) 各教員(情報通信)		
備考			
●本講座の目的およびねらい			
画像システム・通信システムは現代社会を支える基盤技術である。またそこには、本専攻の学生が理解し自らのものとしておくべき情報理論、データ処理、信号処理等の情報システム全般に適用する重要な技術が活用されている。本講義では、画像システム、通信システムの両者が融合した画像情報通信システムについて、講義と演習・実習によりその全体像を理解するとともに、それを構成する各要素について基礎的かつ体系的な知識を得、理解を深めることを目的とする。			
●バックグラウンドとなる科目			
計算機リテラシ及びプログラミング、情報通信工学第1、情報通信工学第2、伝送システム工学			
●授業内容			
講義 ・画像通信システムの構成要素 ・画像信号処理の基礎(画像情報の特徴、画像情報処理技術、圧縮・復元) ・情報通信の基礎(変復調技術、通信路、誤り訂正) 演習 下記各要素について、グループに分かれ計算機シミュレーションシステムを構築、要素間のインタフェースを規定し、全体を統合したシステムのシミュレーションの実現を目指す。 ・画像情報の前処理・後処理技術 ・画像情報の圧縮・復元技術 ・誤り訂正符号化技術、ARQ技術 ・ベースバンド通信チャネルシミュレータ			
●教科書			
講義中に必要に応じて指示			
●参考書			
講義中に必要に応じて指示			
●成績評価の方法			
筆記試験、演習の成果発表会、レポート			

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義	前期課程	前期課程
	データ解析処理論 (3単位)		
対象専攻・分野 開講時期	電気工学分野 1年前期	電子工学分野 1年前期	情報・通信工学分野 1年前期
教員	各教員(電気工学) 各教員(電子工学) 各教員(情報通信)		
備考			
●本講座の目的およびねらい			
電子情報システムの実験において現れる実験データの採集方法及び解析処理に必要な技法の理解と実践力の養成を目的とする。主要な手法の原理を講義・演習を通して理解するとともに、計算機による処理を実習する。			
●バックグラウンドとなる科目			
数学1、数学2、電気磁気学			
●授業内容			
1. 実験データの実際 2. 実験データに含まれる誤差について 3. 実験値の統計的取り扱い 4. 平均二乗法と近似の実際 5. 実験データの採集とプログラミング 6. 時系列(1次元)データの統計解析 7. ランダムデータの統計解析 8. 相関解析 9. スペクトル解析 10. 時空間(2-4次元)データの統計解析 11. 画像解析・可視化 12. スーパーコンピューティング(並列計算など) 13. シミュレーション解析			
●教科書			
●参考書			
●成績評価の方法			
レポートあるいは試験			

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程	前期課程
	集積プロセスセミナー IIA (2単位)		
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期 2年前期		
教員	豊田 浩孝 教授		
備考			
●本講座の目的およびねらい			
プラズマの科学技術に関連するテキストの輪読、学術論文の紹介、自分の研究の発表・討論を通し、プラズマノ工学の基礎を学び、応用力を身につける。到達目標 1. プラズマの生成・診断・応用技術の基礎を理解し応用出来る。 2. 当該分野の最新論文を理解し説明出来る。			
●バックグラウンドとなる科目			
プラズマ工学、電気磁気学			
●授業内容			
1. 放電物理 2. プラズマ物性 3. プラズマ・表面相互作用 4. プラズマ材料プロセス			
●教科書			
輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を選定する。			
●参考書			
菅井秀郎編著「プラズマエレクトロニクス」(オーム社)；M. Lieberman and A. Lichtenberg, Principles of Plasma Discharges and Materials Processing (John Wiley, 1994)；F. Chen and J. Chang, Lecture Notes on Principles of Plasma Processing (Kluwer Academic, 2003)			
●成績評価の方法			
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。			

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程	前期課程
	集積プロセスセミナー IIA (2単位)		
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期 2年前期		
教員	河野 明廣 教授 林 俊雄 教授		
備考			
●本講座の目的およびねらい			
集積プロセスの計測・制御に関わる分光学、光・レーザー技術についてテキスト・文献を用いて輪読する。			
●バックグラウンドとなる科目			
電気磁気学、量子エレクトロニクス、プラズマ工学、真空電子工学			
●授業内容			
1. 原子・分子分光学 2. 電子分光学 3. 非線形光学 4. レーザー計測			
●教科書			
●参考書			
●成績評価の方法			
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により評価する。			

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー
集積プロセスセミナーⅠ 1A (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期 2年前期
教員	丹司 敬義 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	
電子線、イオン線等の粒子の発生、制御 および 電子、イオン機器と、その応用に因 してテキスト、文献を用いて講義する。	
●バックグラウンドとなる科目	
電磁気学I, II および 真空電子工学	
●授業内容	
1. 電子線、イオン線の発生 2. 電子線、イオン線の制御 3. 電子線、イオン線機器	
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	
口述試験	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー
集積プロセスセミナーⅠ 1A (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期 2年前期
教員	佐々木 浩一 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	
集積プロセス工学を研究するために必要なテキストおよび文献を輪読・発表し、特に、 プラズマプロセス工学およびレーザープロセス工学の基礎事項を習得すると共に関連分 野の研究動向および研究課題について理解する。	
●バックグラウンドとなる科目	
電磁気学、プラズマ物理学、レーザー工学、量子エレクトロニクス	
●授業内容	
1. 原子分子物理学、 2. プラズマ診断工学、 3. プラズマ・表面相互作用、 4. レーザーアブレーション、 5. プラズマプロセスおよび材料プロセス応用	
●教科書	
輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進 行に合わせて論文を適宜選定する。	
●参考書	
なし	
●成績評価の方法	
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。10 0点満点で55点以上を合格とする。	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー
集積プロセスセミナーⅠ 1B (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年後期 2年後期
教員	豊田 浩幸 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	
プラズマの科学技術に関連するテキストの輪読、学術論文の紹介、自分の研究の発表・ 討論を通し、プラズマ工学の基礎を学び、応用力を身につける。到達目標 1. プラズマの生成・診断・応用技術の基礎を理解し応用できる。 2. 当該分野の最新論文を理解し説明できる。	
●バックグラウンドとなる科目	
プラズマ工学、電磁気学	
●授業内容	
1. 放電物理 2. プラズマ物性 3. プラズマ・表面相互作用 4. プラズマ材料プロセス	
●教科書	
輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進 行に合わせて論文を適宜選定する。	
●参考書	
菅井秀郎編著「プラズマエレクトロニクス」(オーム社)； M. Lieberman and A. Lichtenberg, Principles of Plasma Discharges and Materials Processing (John Wiley, 1994)； F. Chen and J. Chang, Lecture Notes on Principles of Plasma Processing (Kluwer Academic, 2003)	
●成績評価の方法	
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。10 0点満点で55点以上を合格とする。	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー
集積プロセスセミナーⅠ 1B (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年後期 2年後期
教員	河野 明廣 教授 林 俊雄 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	
集積プロセスの計測・制御に関わる分光学、光・レーザー技術についてテキスト・文献 を用いて講義する。	
●バックグラウンドとなる科目	
電気磁気学、量子エレクトロニクス、プラズマ工学、真空電子工学	
●授業内容	
1. 原子・分子分光学 2. 電子分光学 3. 非線形光学 4. レーザー計測	
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により評価する。	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー 集積プロセスセミナーⅠ1B (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年後期 2年後期
教員	丹司 敬義 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	電子線、イオン線等の粒子の発生、制御 および 電子、イオン機器と、その応用に関してテキスト、文献を用いて論講する。
●バックグラウンドとなる科目	電磁気学I、II および 真空電子工学
●授業内容	1. 電子線、イオン線の発生 2. 電子線、イオン線の制御 3. 電子線、イオン線機器
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	口述試験

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー 集積プロセスセミナーⅠ1B (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年後期 2年後期
教員	佐々木 浩一 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	集積プロセスの基礎となるプラズマプロセス工学およびレーザープロセス工学に関するテキストを用いて論講する。
●バックグラウンドとなる科目	電磁気学、プラズマ物理学、レーザー工学、量子エレクトロニクス
●授業内容	1. 原子分子物理学、 2. プラズマ診断工学、 3. プラズマ・表面相互作用、 4. レーザーアプレーション、 5. プラズマプロセスおよび材料プロセス応用、
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	口述試験あるいはレポート

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー 集積プロセスセミナーⅠ1C (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期 2年前期
教員	豊田 浩孝 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	プラズマの科学技術に関連するテキストの論講、学術論文の紹介、自分の研究の発表・討論を通じ、プラズマ工学の基礎を学び、応用力を身につける。到達目標 1. プラズマの生成・診断・応用技術の基礎を理解し応用できる。 2. 当該分野の最新論文を理解し説明できる。
●バックグラウンドとなる科目	プラズマ工学、電磁気学
●授業内容	1. 放電物理 2. プラズマ物性 3. プラズマ・表面相互作用 4. プラズマ材料プロセス
●教科書	論講する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を選定する。
●参考書	菅井秀郎編著「プラズマエレクトロニクス」(オーム社)； M. Lieberman and A. Lichtenberg, Principles of Plasma Discharges and Materials Processing (John Wiley, 1994)； F. Chen and J. Chang, Lecture Notes on Principles of Plasma Processing (Kluwer Academic, 2003)
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー 集積プロセスセミナーⅠ1C (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期 2年前期
教員	河野 明廣 教授 林 俊雄 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	集積プロセスの計測・制御に関わる分光学、光・レーザー技術についてテキスト・文献を用いて論講する。
●バックグラウンドとなる科目	電磁気学、量子エレクトロニクス、プラズマ工学、真空電子工学
●授業内容	1. 原子・分子分光学 2. 電子分光学 3. 非線形光学 4. レーザー計測
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により評価する。

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー 集積プロセスセミナーⅠIC (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期 2年前期
教員	丹司 敬義 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	<p>微細な原子構造や電磁気構造の高分解能観察法および高精度計測法の基礎と材料研究への応用に関するテキストや文献を選び輪講する。</p>
●バックグラウンドとなる科目	電磁気学I, II および 真空電子工学 物性基礎論、数学2
●授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高分解能電子顕微鏡法の基礎と応用 2. 分析電子顕微鏡法の基礎と応用 3. 走査電子顕微鏡法の基礎と応用 4. 電子線ホログラフィの基礎と応用 5. X線顕微鏡法の基礎と応用
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	口述試験

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー 集積プロセスセミナーⅠIC (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期 2年前期
教員	佐々木 浩一 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	<p>集積プロセス工学を研究するために必要なテキストおよび文献を輪読・発表し、特に、プラズマプロセス工学およびレーザープロセス工学の基礎事項を習得すると共に関連分野の研究動向および研究課題について理解する。</p>
●バックグラウンドとなる科目	電磁気学, プラズマ物理学, レーザー工学, 量子エレクトロニクス
●授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 原子分子物理学, 2. プラズマ診断工学, 3. プラズマ・表面相互作用, 4. レーザーアブレーション, 5. プラズマプロセスおよび材料プロセス応用
●教科書	<p>輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。</p>
●参考書	なし
●成績評価の方法	<p>セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。</p>

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー 集積プロセスセミナーⅠID (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年後期 2年後期
教員	豊田 浩幸 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	<p>プラズマの科学技術に関連するテキストの輪講、学術論文の紹介、自分の研究の発表・討論を通し、プラズマ工学の基礎を学び、応用力を身につける。 到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プラズマの生成・診断・応用技術の基礎を理解し応用できる。 2. 当該分野の最新論文を理解し説明できる。
●バックグラウンドとなる科目	プラズマ工学、電磁気学
●授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 放電物理 2. プラズマ物性 3. プラズマ・表面相互作用 4. プラズマ材料プロセス
●教科書	<p>輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。</p>
●参考書	<p>菅井秀郎編著「プラズマエレクトロニクス」(オーム社); M. Lieberman and A. Lichtenberg, Principles of Plasma Discharges and Materials Processing (John Wiley, 1994); F. Chen and J. Chang, Lecture Notes on Principles of Plasma Processing (Kluwer Academic, 2003)</p>
●成績評価の方法	レポートあるいは口述試験

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー 集積プロセスセミナーⅠID (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年後期 2年後期
教員	河野 明廣 教授 林 俊雄 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	<p>集積プロセスの計測・制御に関わる分光学、光・レーザー技術についてテキスト・文献を用いて輪講する。</p>
●バックグラウンドとなる科目	電気磁気学, 量子エレクトロニクス, プラズマ工学, 真空電子工学
●授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 原子・分子分光学 2. 電子分光学 3. 非線形光学 4. レーザー計測
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	<p>セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により評価する。</p>

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー
	集積プロセスセミナーⅠ D (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年後期 2年後期
教員	丹司 敬義 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	微細な原子構造や電磁気構造の高分解能観察および高精度計測法の基礎と材料研究への応用に関するテキストや文献を選び輪講する。
●バックグラウンドとなる科目	電磁気学Ⅰ,Ⅱ および 真空電子工学 物性基礎論、数学Ⅱ
●授業内容	1. 高分解能電子顕微鏡法の基礎と応用 2. 分析電子顕微鏡法の基礎と応用 3. 走査電子顕微鏡法の基礎と応用 4. 電子線ホログラフィの基礎と応用 5. X線顕微鏡法の基礎と応用
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	口述試験

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー
	集積プロセスセミナーⅠ D (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年後期 2年後期
教員	佐々木 浩一 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	集積プロセス工学を研究するために必要なテキストおよび文献を輪読・発表し、特に、プラズマプロセス工学およびレーザープロセス工学の基礎事項を習得すると共に関連分野の研究動向および研究課題について理解する。
●バックグラウンドとなる科目	電磁気学、プラズマ物理学、レーザー工学、量子エレクトロニクス
●授業内容	1. 原子分子物理学、 2. プラズマ診断工学、 3. プラズマ・表面相互作用、 4. レーザーアブレーション、 5. プラズマプロセスおよび材料プロセス応用
●教科書	輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。
●参考書	なし
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー
	集積プロセスセミナーⅡ 1 A (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期 2年前期
教員	豊田 浩孝 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	プラズマの科学技術に関連するテキストの輪講、学術論文の紹介、自分の研究の発表・討論を通し、プラズマ工学の基礎を学び、応用力を身につける。 到達目標 1. プラズマの生成・診断・応用技術の基礎を理解し応用できる。 2. 当該分野の最新論文を理解し説明できる。
●バックグラウンドとなる科目	プラズマ工学、電磁気学
●授業内容	1. 放電物理 2. プラズマ物性 3. プラズマ・表面相互作用 4. プラズマ材料プロセス
●教科書	輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。
●参考書	菅井秀郎編著「プラズマエレクトロニクス」(オーム社)； M. Lieberman and A. Lichtenberg, Principles of Plasma Discharges and Materials Processing (John Wiley, 1994)； F. Chen and J. Chang, Lecture Notes on Principles of Plasma Processing (Kluwer Academic, 2003)
●成績評価の方法	レポートあるいは口述試験

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー
	集積プロセスセミナーⅡ 1 A (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期 2年前期
教員	河野 明廣 教授 林 俊雄 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	集積プロセスの基盤技術である非平衡プラズマの基礎と応用に関してテキスト・文献を用いて輪講する。
●バックグラウンドとなる科目	電磁気学、プラズマ工学、真空電子工学、量子エレクトロニクス
●授業内容	1. プラズマの基本的性質 2. プラズマ中の原子分子過程 3. プラズマ診断技術 4. プラズマシミュレーション技術 5. プラズマプロセス
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により評価する。

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー
	集積プロセスセミナーⅡ 1 A (2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1 年前期 2 年前期
教員	丹司 敬義 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	電子線、イオン線等の粒子線と物質との相互作用、および 電子、イオン機器と、その応用に関してテキスト、文献を用いて輪講する。
●バックグラウンドとなる科目	電磁気学I、II および 真空電子工学 固体電子工学
●授業内容	1. 電子線、イオン線と物質との相互作用 2. 電子線、イオン線による物質の構造解析および分析 3. 電子線、イオン線機器
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	口述試験

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー
	集積プロセスセミナーⅡ 1 A (2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1 年前期 2 年前期
教員	佐々木 浩一 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	集積プロセス工学を研究するために必要なテキストおよび文献を輪読・発表し、特に、プラズマプロセス工学およびレーザープロセス工学の基礎事項を習得すると共に関連分野の研究動向および研究課題について理解する。
●バックグラウンドとなる科目	電磁気学、プラズマ物理学、レーザー工学、量子エレクトロニクス
●授業内容	1. 原子分子物理学、 2. プラズマ診断工学、 3. プラズマ・表面相互作用、 4. レーザーアブレーション、 5. プラズマプロセスおよび材料プロセス応用
●教科書	輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。
●参考書	なし
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー
	集積プロセスセミナーⅡ 1 B (2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1 年後期 2 年後期
教員	豊田 浩孝 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	プラズマの科学技術に関連するテキストの輪講、学術論文の紹介、自分の研究の発表・討論を通し、プラズマ工学の基礎を学び、応用力を身につける。到達目標 1. プラズマの生成・診断・応用技術の基礎を理解し応用できる。 2. 当該分野の最新論文を理解し説明できる。
●バックグラウンドとなる科目	プラズマ工学、電気磁気学
●授業内容	1. 放電物理 2. プラズマ物性 3. プラズマ・表面相互作用 4. プラズマ材料プロセス
●教科書	輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。
●参考書	菅井秀郎編著「プラズマエレクトロニクス」(オーム社)； M. Lieberman and A. Lichtenberg, Principles of Plasma Discharges and Materials Processing (John Wiley, 1994)； F. Chen and J. Chang, Lecture Notes on Principles of Plasma Processing (Kluwer Academic, 2003)
●成績評価の方法	レポートあるいは口述試験

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー
	集積プロセスセミナーⅡ 1 B (2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1 年後期 2 年後期
教員	河野 明廣 教授 林 俊雄 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	集積プロセスの基盤技術である非平衡プラズマの基礎と応用に関してテキスト・文献を用いて輪講する。
●バックグラウンドとなる科目	電気磁気学、プラズマ工学、真空電子工学、量子エレクトロニクス
●授業内容	1. プラズマの基本的性質 2. プラズマ中の原子分子過程 3. プラズマ診断技術 4. プラズマシミュレーション技術 5. プラズマプロセス
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により評価する。

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー
	集積プロセスセミナーⅡ 1 B (2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1 年後期 2 年後期
教員	丹司 敬義 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	
電子線、イオン線等の粒子線と物質との相互作用、および 電子、イオン機器と、その応用に関してテキスト、文献を用いて論講する。	
●バックグラウンドとなる科目	
電磁気学Ⅰ、Ⅱ および 真空電子工学 固体電子工学	
●授業内容	
1. 電子線、イオン線と物質との相互作用 2. 電子線、イオン線による物質の構造解析および分析 3. 電子線、イオン線機器	
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	
口述試験	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー
	集積プロセスセミナーⅡ 1 B (2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1 年後期 2 年後期
教員	佐々木 浩一 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	
集積プロセス工学を研究するために必要なテキストおよび文献を論読・発表し、特に、プラズマプロセス工学およびレーザープロセス工学の基礎事項を習得すると共に関連分野の研究動向および研究課題について理解する。	
●バックグラウンドとなる科目	
電磁気学、プラズマ物理学、レーザー工学、量子エレクトロニクス	
●授業内容	
1. 原子分子物理学、 2. プラズマ診断工学、 3. プラズマ・表面相互作用、 4. レーザーアブレーション、 5. プラズマプロセスおよび材料プロセス応用	
●教科書	
論読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。	
●参考書	
なし	
●成績評価の方法	
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー
	集積プロセスセミナーⅡ 1 C (2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1 年前期 2 年前期
教員	豊田 浩孝 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	
プラズマの科学技術に関連するテキストの論講、学術論文の紹介、自分の研究の発表・討論を通し、プラズマ工学の基礎を学び、応用力を身につける。 到達目標 1. プラズマの生成・診断・応用技術の基礎を理解し応用できる。 2. 当該分野の最新論文を理解し説明できる。	
●バックグラウンドとなる科目	
プラズマ工学、電磁気学	
●授業内容	
1. 放電物理 2. プラズマ物性 3. プラズマ・表面相互作用 4. プラズマ材料プロセス	
●教科書	
論読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。	
●参考書	
菅井秀郎編著「プラズマエレクトロニクス」(オーム社) ; M. Lieberman and A. Lichtenberg, Principles of Plasma Discharges and Materials Processing (John Wiley, 1994) ; F. Chen and J. Chang, Lecture Notes on Principles of Plasma Processing (Kluwer Academic, 2003)	
●成績評価の方法	
レポートあるいは口述試験	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー
	集積プロセスセミナーⅡ 1 C (2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1 年前期 2 年前期
教員	河野 明廣 教授 林 俊雄 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	
集積プロセスの基盤技術である非平衡プラズマの基礎と応用に関してテキスト・文献を用いて論講する。	
●バックグラウンドとなる科目	
電磁気学、真空電子工学、固体電子工学、量子エレクトロニクス	
●授業内容	
1. プラズマの基本的性質 2. プラズマ中の原子分子過程 3. プラズマ診断技術 4. プラズマシミュレーション技術 5. プラズマプロセス	
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により評価する。	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー 集積プロセスセミナーⅡ 1 C (2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1 年前期 2 年前期
教員	丹司 敬義 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	電子線の散乱と回折の基礎、および、電子顕微鏡法と電子回折法を用いた結晶構造解析に関するテキスト、文献を選び輪講する。
●バックグラウンドとなる科目	電磁気学Ⅰ, Ⅱ および 真空電子工学 物性基礎論、数学 2
●授業内容	1. 電子線の固体との相互作用 2. 電子線の散乱と回折 3. 結晶と逆格子 4. 電子顕微鏡法と電子回折法を用いた構造解析
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	口述試験

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー 集積プロセスセミナーⅡ 1 C (2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1 年前期 2 年前期
教員	佐々木 浩一 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	集積プロセス工学を研究するために必要なテキストおよび文献を輪読・発表し、特に、プラズマプロセス工学およびレーザープロセス工学の基礎事項を習得すると共に関連分野の研究動向および研究課題について理解する。
●バックグラウンドとなる科目	電磁気学、プラズマ物理学、レーザー工学、量子エレクトロニクス
●授業内容	1. 原子分子物理学 2. プラズマ診断工学 3. プラズマ・表面相互作用 4. レーザーアブレーション 5. プラズマプロセスおよび材料プロセス応用
●教科書	輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。
●参考書	なし
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー 集積プロセスセミナーⅡ 1 D (2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1 年後期 2 年後期
教員	豊田 浩孝 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	プラズマの科学技術に関連するテキストの輪講、学術論文の紹介、自分の研究の発表・討論を通し、プラズマ工学の基礎を学び、応用力を身につける。到達目標 1. プラズマの生成・診断・応用技術の基礎を理解し応用できる。 2. 当該分野の最新論文を理解し説明できる。
●バックグラウンドとなる科目	プラズマ工学、電気磁気学
●授業内容	1. 放電物理 2. プラズマ物性 3. プラズマ・表面相互作用 4. プラズマ材料プロセス
●教科書	輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。
●参考書	菅井秀郎編著「プラズマエレクトロニクス」(オーム社) ; M. Lieberman and A. Lichtenberg, Principles of Plasma Discharges and Materials Processing (John Wiley, 1994) ; F. Chen and J. Chang, Lecture Notes on Principles of Plasma Processing (Kluwer Academic, 2003)
●成績評価の方法	レポートあるいは口述試験

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー 集積プロセスセミナーⅡ 1 D (2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1 年後期 2 年後期
教員	河野 明廣 教授 林 俊雄 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	集積プロセスの基盤技術である非平衡プラズマの基礎と応用に関してテキスト・文献を用いて輪講する。
●バックグラウンドとなる科目	電気磁気学、プラズマ工学、真空電子工学、量子エレクトロニクス
●授業内容	1. プラズマの基本的性質 2. プラズマ中の原子分子過程 3. プラズマ診断技術 4. プラズマシミュレーション技術 5. プラズマプロセス
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により評価する。

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー 集積プロセスセミナーⅡ1D (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年後期 2年後期
教員	丹司 敬義 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	電子線の散乱と回折の基礎、および、電子顕微鏡法と電子回折法を用いた結晶構造解析に関するテキスト、文献を選び輪講する。
●バックグラウンドとなる科目	電磁気学I、II および 真空電子工学 物性基礎論、数学2
●授業内容	1. 電子線の固体との相互作用 2. 電子線の散乱と回折 3. 結晶と逆格子 4. 電子顕微鏡法と電子回折法を用いた構造解析
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	口述試験

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー 集積プロセスセミナーⅡ1D (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年後期 2年後期
教員	佐々木 浩一 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	集積プロセス工学を研究するために必要なテキストおよび文献を輪講・発表し、特に、プラズマプロセス工学およびレーザープロセス工学の基礎事項を習得すると共に関連分野の研究動向および研究課題について理解する。
●バックグラウンドとなる科目	電磁気学、プラズマ物理学、レーザー工学、量子エレクトロニクス
●授業内容	1. 原子分子物理学、 2. プラズマ診断工学、 3. プラズマ・表面相互作用、 4. レーザーアブレーション、 5. プラズマプロセスおよび材料プロセス応用
●教科書	輪講する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。
●参考書	なし
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー 情報デバイスセミナーⅠ1A (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期 2年前期
教員	網島 滋 教授 岩田 聡 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	情報記録・記憶デバイスに関連した磁性薄膜の測定、評価技術について、テキスト、文献を用いて輪講をする。
●バックグラウンドとなる科目	電磁気学、電気物性基礎論、固体電子工学、磁性体工学
●授業内容	1. 交番磁界勾配磁力計 2. 磁気力顕微鏡と原子間力顕微鏡 3. 磁気光学効果顕微鏡とx線磁気円偏光2色性顕微鏡 4. 反射高速電子回折法・低速電子回折法 5. x線回折法 6. 走査電子顕微鏡・透過電子顕微鏡
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	口述試験

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー 情報デバイスセミナーⅠ1A (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期 2年前期
教員	澤木 宣彦 教授 山口 雅史 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	半導体エレクトロニクスに関する諸問題を理解するため下記の課題に関するテキスト、学術論文などを選び輪講する。
●バックグラウンドとなる科目	固体電子工学、半導体工学、電子デバイス工学
●授業内容	1. 半導体の電気的性質 2. 半導体の光学的性質 3. 半導体の結晶成長 4. 電子デバイス 5. 光デバイス 6. 量子デバイス、ナノエレクトロニクス
●教科書	教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。
●参考書	なし
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする。 履修条件・注意事項等：特になし。 質問への対応：セミナー時に対応する。

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー 情報デバイスセミナーⅠⅠA (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期 1年前期
教員	中里 和郎 教授 内山 剛 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	マイクロセンサ等のアナログ情報デバイスの集積・システム化技術に関する知識を習得するために適当なテキスト・文献を用いて輪講する。
●バックグラウンドとなる科目	磁性体工学, 半導体工学, 電子回路工学
●授業内容	1. マイクロセンサデバイス 2. アナログCMOS集積回路 3. A/D変換器 4. マイクロセンサ応用計測システム
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	レポート

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー 情報デバイスセミナーⅠⅠA (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期 2年前期
教員	田中 成泰 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	電子線の散乱と回折の基礎、および、電子顕微鏡法と電子回折法を用いた結晶構造解析に関するテキスト、文献を選び輪講する。
●バックグラウンドとなる科目	電磁気学I, II および 真空電子工学 物性基礎論、教学2
●授業内容	1. 電子線の固体との相互作用 2. 電子線の散乱と回折 3. 結晶と逆格子 4. 電子顕微鏡法と電子回折法を用いた構造解析
●教科書	輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。
●参考書	なし
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする。

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー 情報デバイスセミナーⅠⅠB (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年後期 2年後期
教員	綱島 滋 教授 岩田 聡 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	情報記録・記憶デバイスに関連した磁性薄膜材の作製と微細加工技術について、テキスト、文献を用いて輪講する。
●バックグラウンドとなる科目	電気磁気学, 電気物性基礎論, 固体電子工学, 磁性体工学
●授業内容	1. 真空蒸着と分子線エピタキシー 2. スパッタリング蒸着 3. 光リソグラフィ 4. 収束イオンビーム加工 5. 電子ビーム加工 6. エッチング技術
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	口述試験

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー 情報デバイスセミナーⅠⅠB (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年後期 2年後期
教員	澤木 宣彦 教授 山口 雅史 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	半導体エレクトロニクスに関する諸問題を理解するため下記の課題に関するテキスト、学術論文などを選び輪講する。
●バックグラウンドとなる科目	固体電子工学, 半導体工学, 電子デバイス工学
●授業内容	1. 半導体の電気的性質 2. 半導体の光学的性質 3. 半導体の結晶成長 4. 電子デバイス 5. 光デバイス 6. 量子デバイス, ナノエレクトロニクス
●教科書	教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。
●参考書	なし
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする。 履修条件・注意事項等：特になし。 質問への対応：セミナー時に対応する。

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー 情報デバイスセミナーⅠ 1 B (2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1 年後期 2 年後期
教員	中里 和郎 教授 内山 剛 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	マイクロセンサ等のアナログ情報デバイスの集積・システム化技術に関する知識を習得するために適当なテキスト・文献を用いて輪講する。
●バックグラウンドとなる科目	磁性体工学, 半導体工学, 電子回路工学
●授業内容	1. マイクロセンサデバイス 2. アナログCMOS集積回路 3. A/D 変換器 4. マイクロセンサ応用計測システム
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	レポート

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー 情報デバイスセミナーⅠ 1 B (2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1 年後期 2 年後期
教員	田中 成泰 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	微細な原子構造や電磁気構造の高分解能観察法および高精度計測法の基礎と材料研究への応用に関するテキストや文献を選び輪講する。
●バックグラウンドとなる科目	電磁気学I, II および 真空電子工学 物性基礎論, 数学
●授業内容	1. 高分解能電子顕微鏡法の基礎と応用 2. 分析電子顕微鏡法の基礎と応用 3. 走査電子顕微鏡法の基礎と応用 4. 電子線ホログラフィの基礎と応用
●教科書	輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。
●参考書	なし
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする。

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー 情報デバイスセミナーⅠ 1 C (2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1 年前期 2 年前期
教員	綱島 滋 教授 岩田 聡 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	情報記録・記憶デバイスに関連した磁性薄膜材料の特性について、テキスト、文献を用いて輪講をする。
●バックグラウンドとなる科目	電気磁気学, 電気物性基礎論, 固体電子工学, 磁性体工学
●授業内容	1. 多層膜の磁気異方性 2. L10構造膜の磁気異方性 3. 巨大磁気抵抗効果 4. トンネル磁気抵抗効果 5. 微小磁性体の物性と応用 6. 磁気光学効果
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	口述試験

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー 情報デバイスセミナーⅠ 1 C (2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1 年前期 2 年前期
教員	澤木 宣彦 教授 山口 雅史 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	半導体エレクトロニクスに関する諸問題を理解するため下記の課題に関するテキスト、学術論文などを選び輪講する。
●バックグラウンドとなる科目	固体電子工学, 半導体工学, 電子デバイス光学
●授業内容	1. 半導体の電気的性質 2. 半導体の光学的性質 3. 半導体の結晶成長 4. 電子デバイス 5. 光デバイス 6. 量子デバイス, ナノエレクトロニクス
●教科書	教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。
●参考書	なし
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする。 履修条件・注意事項等：特になし。 質問への対応：セミナー時に対応する。

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー
	情報デバイスセミナー IIC (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期 1年前期
教員	中里 和郎 教授 内山 剛 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	マイクロセンサ等のアナログ情報デバイスの集積・システム化技術に関する知識を習得するために適当なテキスト・文献を用いて輪講する。
●バックグラウンドとなる科目	磁性体工学, 半導体工学, 電子回路工学
●授業内容	1. マイクロセンサデバイス 2. アナログCMOS集積回路 3. A/D変換器 4. マイクロセンサ応用計測システム
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	レポート

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー
	情報デバイスセミナー IIC (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期 2年前期
教員	田中 成泰 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	電子線の散乱と回折の基礎、および、電子顕微鏡法と電子回折法を用いた結晶構造解析に関するテキスト、文献を選び輪講する。
●バックグラウンドとなる科目	電磁気学I, II および 真空電子工学 物性基礎論、数学2
●授業内容	1. 電子線の固体との相互作用 2. 電子線の散乱と回折 3. 結晶と格子 4. 電子顕微鏡法と電子回折法を用いた構造解析
●教科書	輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。
●参考書	なし
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする。

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー
	情報デバイスセミナー IID (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年後期 2年後期
教員	網島 滋 教授 岩田 聡 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	磁性薄膜を用いた情報記録・記憶デバイスについて、テキスト、文献を用いて輪講をする。
●バックグラウンドとなる科目	電気磁気学, 電気物性基礎論, 固体電子工学, 磁性体工学
●授業内容	1. 磁気記録 2. 熱磁気記録 3. ハイブリッド磁気記録 4. 磁気ランダムアクセスメモリ
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	口述試験

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー
	情報デバイスセミナー IID (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年後期 2年後期
教員	澤木 宣彦 教授 山口 雅史 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	半導体エレクトロニクスに関する諸問題を理解するため下記の課題に関するテキスト、学術論文などを選び輪講する。
●バックグラウンドとなる科目	固体電子工学, 半導体工学, 電子デバイス光学
●授業内容	1. 半導体の電気的性質 2. 半導体の光学的性質 3. 半導体の結晶成長 4. 電子デバイス 5. 光デバイス 6. 量子デバイス, ナノエレクトロニクス
●教科書	教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を選定する。
●参考書	なし
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする。 履修条件・注意事項等：特になし。 質問への対応：セミナー時に対応する。

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー 情報デバイスセミナーⅠ 1 D (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年後期 2年後期
教員	中里 和郎 教授 内山 剛 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	マイクロセンサ等のアナログ情報デバイスの集積・システム化技術に関する知識を習得するために適当なテキスト・文献を用いて輪講する。
●バックグラウンドとなる科目	磁性体工学, 半導体工学, 電子回路工学
●授業内容	1. マイクロセンサデバイス 2. アナログCMOS集積回路 3. A/D変換器 4. マイクロセンサ応用計測システム
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	レポート

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー 情報デバイスセミナーⅠ 1 D (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年後期 2年後期
教員	田中 成泰 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	微細な原子構造や電磁気構造の高分解能観察法および高精度計測法の基礎と材料研究への応用に関するテキストや文献を選び輪講する。
●バックグラウンドとなる科目	電磁気学Ⅰ, Ⅱ および 真空電子工学 物性基礎論、数学Ⅱ
●授業内容	1. 高分解能電子顕微鏡法の基礎と応用 2. 分析電子顕微鏡法の基礎と応用 3. 走査電子顕微鏡法の基礎と応用 4. 電子線ホログラフィの基礎と応用
●教科書	輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。
●参考書	なし
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする。

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー 情報デバイスセミナーⅡ 1 A (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期 2年前期
教員	網島 滋 教授 岩田 聡 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	磁性材料とその応用に関して、テキスト、文献を用いて輪講を行う。
●バックグラウンドとなる科目	電気磁気学, 電気物性基礎論, 固体電子工学, 磁性体工学
●授業内容	1. 薄膜の構造と磁性 2. 磁気異方性と磁歪 3. 磁区構造と磁化機構 4. スピンエレクトロニクス 5. 磁性材料の微細加工技術
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	口述試験

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー 情報デバイスセミナーⅡ 1 A (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期 2年前期
教員	澤木 宣彦 教授 山口 雅史 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	半導体エレクトロニクスに関する諸問題を理解するため下記の課題に関するテキスト、学術論文などを選び輪講する。
●バックグラウンドとなる科目	固体電子工学, 半導体工学, 電子デバイス光学
●授業内容	1. 半導体の電気的性質 2. 半導体の光学的性質 3. 半導体の結晶成長 4. 電子デバイス 5. 光デバイス 6. 量子デバイス, ナノエレクトロニクス
●教科書	教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。
●参考書	なし
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする。 履修条件・注意事項等：特になし。 質問への対応：セミナー時に対応する。

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー
	情報デバイスセミナーⅡ 1 A (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期 1年前期
教員	中里 和郎 教授 内山 剛 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	ユビキタスセンシングの基盤となるアナログ情報デバイスのシステムインテグレーション技術を理解するため、適当な文献を用いて輪講を行う。
●バックグラウンドとなる科目	磁性体工学, 半導体工学, 電子回路工学
●授業内容	1 マイクロセンサ 2 アナログ集積回路 3 ユビキタスセンシング
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	レポート

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー
	情報デバイスセミナーⅡ 1 A (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期 2年前期
教員	田中 成泰 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	電子線の散乱と回折の基礎、および、電子顕微鏡法と電子回折法を用いた結晶構造解析に関するテキスト、文献を選び輪講する。
●バックグラウンドとなる科目	電磁気学I, II および 真空電子工学 物性基礎論、数学2
●授業内容	1. 電子線の固体との相互作用 2. 電子線の散乱と回折 3. 結晶と逆格子 4. 電子顕微鏡法と電子回折法を用いた構造解析
●教科書	輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。
●参考書	なし
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする。

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー
	情報デバイスセミナーⅡ 1 B (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年後期 2年後期
教員	網島 滋 教授 岩田 聡 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	磁性材料とその応用に関して、テキスト、文献を用いて輪講を行う。
●バックグラウンドとなる科目	電気磁気学, 電気物性基礎論, 固体電子工学, 磁性体工学
●授業内容	1. 薄膜の構造と磁性 2. 磁気異方性と磁歪 3. 磁区構造と磁化機構 4. スピンエレクトロニクス 5. 磁性材料の微細加工技術
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	口述試験

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー
	情報デバイスセミナーⅡ 1 B (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年後期 2年後期
教員	澤木 宣彦 教授 山口 雅史 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	半導体エレクトロニクスに関する諸問題を理解するため下記の課題に関するテキスト、学術論文などを選び輪講する。
●バックグラウンドとなる科目	固体電子工学, 半導体工学, 電子デバイス光学
●授業内容	1. 半導体の電気的性質 2. 半導体の光学的性質 3. 半導体の結晶成長 4. 電子デバイス 5. 光デバイス 6. 量子デバイス, ナノエレクトロニクス
●教科書	教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を選定する。
●参考書	なし
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする。 履修条件・注意事項等：特になし。 質問への対応：セミナー時に対応する。

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー 情報デバイスセミナーⅡ 1 B (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年後期 2年後期
教員	中里 和郎 教授 内山 剛 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	ユビキタスセンシングの基盤となるアナログ情報デバイスのシステムインテグレーション技術を理解するため、適当な文献を用いて輪講を行う。
●バックグラウンドとなる科目	磁性体工学, 半導体工学, 電子回路工学
●授業内容	1 マイクロセンサ 2 アナログ集積回路 3 ユビキタスセンシング
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	レポート

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー 情報デバイスセミナーⅡ 1 B (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年後期 2年後期
教員	田中 成泰 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	微細な原子構造や電磁気構造の高分解能観察法および高精度計測法の基礎と材料研究への応用に関するテキストや文献を選び輪講する。
●バックグラウンドとなる科目	電磁気学I, II および 真空電子工学 物性基礎論, 数学2
●授業内容	1. 高分解能電子顕微鏡法の基礎と応用 2. 分析電子顕微鏡法の基礎と応用 3. 走査電子顕微鏡法の基礎と応用 4. 電子線ホログラフィの基礎と応用
●教科書	輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。
●参考書	なし
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする。

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー 情報デバイスセミナーⅡ 1 C (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期 2年前期
教員	綱島 滋 教授 岩田 聡 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	磁性材料とその応用に関して、テキスト、文献を用いて輪講を行う。
●バックグラウンドとなる科目	電気磁気学, 電気物性基礎論, 固体電子工学, 磁性体工学
●授業内容	1. 薄層の構造と磁性 2. 磁気異方性と磁歪 3. 磁区構造と磁化機構 4. スピンエレクトロニクス 5. 磁性材料の微細加工技術
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	口述試験

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー 情報デバイスセミナーⅡ 1 C (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期 2年前期
教員	澤木 宣彦 教授 山口 雅史 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	半導体エレクトロニクスに関する諸問題を理解するため下記の課題に関するテキスト、学術論文などを選び輪講する。
●バックグラウンドとなる科目	固体電子工学, 半導体工学, 電子デバイス光学
●授業内容	1. 半導体の電気的性質 2. 半導体の光学的性質 3. 半導体の結晶成長 4. 電子デバイス 5. 光デバイス 6. 量子デバイス, ナノエレクトロニクス
●教科書	教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を選定する。
●参考書	なし
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする。 履修条件・注意事項等：特になし。 質問への対応：セミナー時に対応する。

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー
	情報デバイスセミナーⅡ 1 C (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期 2年前期
教員	中里 和郎 教授 内山 剛 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	ユビキタスセンシングの基盤となるアナログ情報デバイスのシステムインテグレーション技術を理解するため、適当な文献を用いて輪講を行う。
●バックグラウンドとなる科目	磁性体工学, 半導体工学, 電子回路工学
●授業内容	1 マイクロセンサ 2 アナログ集積回路 3 ユビキタスセンシング
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	レポート

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー
	情報デバイスセミナーⅡ 1 C (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期 2年前期
教員	田中 成泰 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	電子線の散乱と回折の基礎、および、電子顕微鏡法と電子回折法を用いた結晶構造解析に関するテキスト、文献を選び輪講する。
●バックグラウンドとなる科目	電磁気学I, II および 真空電子工学 物性基礎論、数学2
●授業内容	1. 電子線の固体との相互作用 2. 電子線の散乱と回折 3. 結晶と逆格子 4. 電子顕微鏡法と電子回折法を用いた構造解析
●教科書	輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する
●参考書	なし
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする。

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー
	情報デバイスセミナーⅡ 1 D (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年後期 2年後期
教員	綱島 滋 教授 岩田 聡 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	磁性材料とその応用に関して、テキスト、文献を用いて輪講を行う。
●バックグラウンドとなる科目	電気磁気学, 電気物性基礎論, 固体電子工学, 磁性体工学
●授業内容	1. 薄膜の構造と磁性 2. 磁気異方性と磁歪 3. 磁区構造と磁化機構 4. スピンエレクトロニクス 5. 磁性材料の微細加工技術
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	口述試験

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー
	情報デバイスセミナーⅡ 1 D (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年後期 2年後期
教員	澤木 宣彦 教授 山口 雅史 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	半導体エレクトロニクスに関する諸問題を理解するため下記の課題に関するテキスト、学術論文などを選び輪講する。
●バックグラウンドとなる科目	固体電子工学, 半導体工学, 電子デバイス光学
●授業内容	1. 半導体の電気的性質 2. 半導体の光学的性質 3. 半導体の結晶成長 4. 電子デバイス 5. 光デバイス 6. 量子デバイス, ナノエレクトロニクス
●教科書	教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。
●参考書	なし
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする。 履修条件・注意事項等：特になし。 質問への対応：セミナー時に対応する。

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	
	情報デバイスセミナーⅡ1D (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年後期 2年後期	
教員	中里 和郎 教授 内山 剛 准教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい	ユビキタスセンシングの基盤となるアナログ情報デバイスのシステムインテグレーション技術を理解するため、適当な文献を用いて輪講を行う。	
●バックグラウンドとなる科目	磁性体工学, 半導体工学, 電子回路工学	
●授業内容	1 マイクロセンサ 2 アナログ集積回路 3 ユビキタスセンシング	
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法	レポート	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	
	情報デバイスセミナーⅡ1D (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年後期 2年後期	
教員	田中 成泰 准教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい	微細な原子構造や電磁気構造の高分解能観察法および高精度計測法の基礎と材料研究への応用に関するテキストや文献を選び輪講する。	
●バックグラウンドとなる科目	電磁気学I, II および 真空電子工学 物性基礎論、数学2	
●授業内容	1. 高分解能電子顕微鏡法の基礎と応用 2. 分析電子顕微鏡法の基礎と応用 3. 走査電子顕微鏡法の基礎と応用 4. 電子線ホログラフィの基礎と応用	
●教科書	輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。	
●参考書	なし	
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする。	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	ナノデバイス工学セミナー1A (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期 2年前期	量子工学専攻 1年前期
教員	水谷 孝 教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい	ナノデバイスに関する諸問題を理解するために下記の課題に関するテキスト、学術論文などを選び輪講する。達成目標 1. 基礎的なナノ構造における重要な物理的性質を理解し、説明できる。 2. 基礎的なナノデバイスの動作原理を理解し、説明できる。	
●バックグラウンドとなる科目	固体電子工学、半導体デバイス工学、量子力学	
●授業内容	1. ナノ構造の電子輸送現象 2. ナノ構造の光学的性質 3. ナノデバイスの動作原理 4. ナノデバイスの作製工程 5. ナノデバイスの高周波特性	
●教科書	輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて適宜選定する。	
●参考書	なし	
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	ナノデバイス工学セミナー1B (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年後期 2年後期	量子工学専攻 1年後期
教員	水谷 孝 教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい	ナノデバイスに関する諸問題を理解するために下記の課題に関するテキスト、学術論文などを選び輪講する。達成目標 1. 基礎的なナノ構造における重要な物理的性質を理解し、説明できる。 2. 基礎的なナノデバイスの動作原理を理解し、説明できる。	
●バックグラウンドとなる科目	固体電子工学、半導体デバイス工学、量子力学	
●授業内容	1. ナノ構造の電子輸送現象 2. ナノ構造の光学的性質 3. ナノデバイスの動作原理 4. ナノデバイスの作製工程 5. ナノデバイスの高周波特性	
●教科書	輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて適宜選定する。	
●参考書	なし	
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	ナノデバイス工学セミナー1C	(2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期 2年前期	量子工学専攻 2年前期
教員	水谷 孝 教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
ナノデバイスに関する諸問題を理解するために下記の課題に関するテキスト、学術論文などを選び輪講する。達成目標 1. 基礎的なナノ構造における重要な物理的性質を理解し、説明できる。 2. 基礎的なナノデバイスの動作原理を理解し、説明できる。		
●バックグラウンドとなる科目		
固体電子工学、半導体デバイス工学、量子力学		
●授業内容		
1. MBE結晶成長 2. ヘテロ構造デバイス 3. 共鳴トンネルデバイス 4. 半導体量子構造の輸送現象 5. 半導体量子構造の光学的性質		
●教科書		
輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて適宜選定する。		
●参考書		
なし		
●成績評価の方法		
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	ナノデバイス工学セミナー1D	(2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年後期 2年後期	量子工学専攻 2年後期
教員	水谷 孝 教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
ナノデバイスに関する諸問題を理解するために下記の課題に関するテキスト、学術論文などを選び輪講する。達成目標 1. 基礎的なナノ構造における重要な物理的性質を理解し、説明できる。 2. 基礎的なナノデバイスの動作原理を理解し、説明できる。		
●バックグラウンドとなる科目		
固体電子工学、半導体デバイス工学、量子力学		
●授業内容		
1. ナノ構造の電子輸送現象 2. ナノ構造の光学的性質 3. ナノデバイスの動作原理 4. ナノデバイスの作製工程 5. ナノデバイスの高周波特性		
●教科書		
輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて適宜選定する。		
●参考書		
なし		
●成績評価の方法		
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	量子集積デバイス工学セミナー1A	(2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期 2年前期	量子工学専攻 1年前期
教員	藤巻 朗 教授 井上 真澄 講師	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
超伝導エレクトロニクスに関するテキスト、文献を選び輪講し、超伝導プロセス・デバイスの基礎を学修する。		
●バックグラウンドとなる科目		
量子力学、固体電子工学		
●授業内容		
1. 超伝導現象 2. ジョセフソン接合 3. ジョセフソン回路		
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法		
レポート		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	量子集積デバイス工学セミナー1B	(2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年後期 2年後期	量子工学専攻 1年後期
教員	藤巻 朗 教授 井上 真澄 講師	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
超伝導エレクトロニクスに関するテキスト、文献を選び輪講し、超伝導デバイス・回路について学修する。		
●バックグラウンドとなる科目		
量子力学、固体電子工学		
●授業内容		
1. ジョセフソン接合の物理と応用 2. ジョセフソン集積回路		
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法		
レポート		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	量子集積デバイス工学セミナー1C (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期 2年前期	量子工学専攻 2年前期
教員	藤巻 朗 教授 井上 真澄 講師	
備考		
●本講座の目的およびねらい 高温超伝導に関するテキスト、文献を選び輪講し、そのデバイス応用について学修する。		
●バックグラウンドとなる科目 量子力学、固体電子工学		
●授業内容 1. 超伝導現象 2. 高温超伝導体 3. 高温超伝導ジョセフソン接合		
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法 レポート		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	量子集積デバイス工学セミナー1D (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年後期 2年後期	量子工学専攻 2年後期
教員	藤巻 朗 教授 井上 真澄 講師	
備考		
●本講座の目的およびねらい 高温超伝導デバイスに関するテキスト、文献を選び輪講し、その物理と応用について学ぶ。		
●バックグラウンドとなる科目 量子力学、固体電子工学		
●授業内容 1. 高温超伝導の物理 2. 高温超伝導ジョセフソン接合と応用		
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法 レポート		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	光子工学セミナー1A (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	量子工学専攻 1年前期	電子工学分野 1年前期 2年前期
教員	川瀬 晃道 教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい レーザーを用いた光子エレクトロニクスの研究をするために必要な教科書を輪講・発表し、光子エレクトロニクス、特にレーザーやTHz波に対する基礎知識と理論的研究方法を習得すると共に、関連分野の研究動向について理解する。 達成目標 1. 光学やレーザーに対する理論的研究手法を用いて、具体的な理論計算・数値計算が実行できる。 2. レーザーやTHz波に関する物理現象のいくつかを理解し、説明できる。		
●バックグラウンドとなる科目 量子力学、電磁気学、光学、分光学		
●授業内容 1. レーザーの基礎理論 (1) 輻射の理論 (2) 光増幅の理論 (3) コヒーレント理論 2. レーザー各論 (1) 半導体レーザー (2) 気体レーザー (3) 固体レーザー (4) ファイバーレーザー		
●教科書 教科書については、年度初めに適宜選定する。		
●参考書 必要に応じてセミナーで紹介する		
●成績評価の方法 セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	光子工学セミナー1B (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	量子工学専攻 1年後期	電子工学分野 1年後期 2年後期
教員	川瀬 晃道 教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい レーザーを用いた光子エレクトロニクスの研究をするために必要な教科書を輪講・発表し、光子エレクトロニクス、特にレーザーやTHz波に対する基礎知識と理論的研究方法を習得すると共に、関連分野の研究動向について理解する。 達成目標 1. 光学やレーザーに対する理論的研究手法を用いて、具体的な理論計算・数値計算が実行できる。 2. レーザーやTHz波に関する物理現象のいくつかを理解し、説明できる。		
●バックグラウンドとなる科目 量子力学、電磁気学、光学、分光学		
●授業内容 1. 非線形光学 (1) 非線形光学基礎理論 (2) 2次の非線形光学効果 (3) 3次の非線形光学効果 2. レーザー分光学 (1) レーザー分光学の基礎 (2) レーザー分光学各論		
●教科書 教科書については、年度初めに適宜選定する。		
●参考書 必要に応じてセミナーで紹介する		
●成績評価の方法 セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	量子工学セミナー1 C	(2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	量子工学専攻 2 年前期	電子工学分野 1 年前期 2 年前期
教員	川瀬 晃道 教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
<p>レーザーを用いた量子エレクトロニクスの研究をするために必要な教科書を論議・発表し、量子エレクトロニクス、特にレーザーやTHz波に対する基礎知識と理論的研究方法を習得すると共に、関連分野の研究動向について理解する。</p> <p>達成目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 光学やレーザーについての理論的研究手法を用いて、新規な問題に対して具体的な理論計算・数値計算が実行できる。 2. レーザーやTHz波に関する新規な物理現象を理解し、説明できる。 		
●バックグラウンドとなる科目		
量子力学、電磁気学、光学、分光学		
●授業内容		
<ol style="list-style-type: none"> 1. レーザーの光通信への応用 <ol style="list-style-type: none"> (1) 光通信原理 (2) 要素技術 (光源、伝搬、検出) (3) システム技術 2. レーザーの量子光学への応用 <ol style="list-style-type: none"> (1) 量子光学理論 (2) 量子雑音制御技術 (3) ファイバー応用技術 		
●教科書		
教科書については、年度初めに適宜選定する。		
●参考書		
必要に応じてセミナーで紹介する		
●成績評価の方法		
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	量子工学セミナー1 D	(2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	量子工学専攻 2 年後期	電子工学分野 1 年後期 2 年後期
教員	川瀬 晃道 教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
<p>レーザーを用いた量子エレクトロニクスの研究をするために必要な教科書を論議・発表し、量子エレクトロニクス、特にレーザーやTHz波に対する基礎知識と理論的研究方法を習得すると共に、関連分野の研究動向について理解する。</p> <p>達成目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 光学やレーザーについての理論的研究手法を用いて、新規な問題に対して具体的な理論計算・数値計算が実行できる。 2. レーザーやTHz波に関する新規な物理現象を理解し、説明できる。 		
●バックグラウンドとなる科目		
量子力学、電磁気学、光学、分光学		
●授業内容		
<ol style="list-style-type: none"> 1. THz波の基礎 2. THz波の生成 3. THz波のイメージングへの応用 		
●教科書		
教科書については、年度初めに適宜選定する。		
●参考書		
必要に応じてセミナーで紹介する		
●成績評価の方法		
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義	前期課程
	プロセスプラズマ工学特論	(2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1 年前期 2 年前期	エネルギー理工学専攻 1 年前期 2 年前期
教員	豊田 浩孝 教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
<p>学部で学習したプラズマ工学を基礎として、プラズマの振舞、プラズマと固体との相互作用およびプラズマ応用について講述する。</p> <p>達成目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プラズマの基礎方程式を理解し、説明できる。 2. プラズマの輸送および拡散を理解し、説明できる。 3. 種々のプラズマ種の原理およびプラズマ加熱過程を理解し、説明できる。 4. 種々のプラズマ応用を理解し、説明できる。 		
●バックグラウンドとなる科目		
プラズマ工学、電磁気学		
●授業内容		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 粒子間衝突 2. プラズマの基礎方程式 3. プラズマ動態 4. 拡散と輸送 5. シース 6. プラズマ源 1 (容量結合型プラズマ) 7. プラズマ源 2 (誘導結合型プラズマ) 8. プラズマ源 3 (電磁波動によるプラズマ生成) 9. プラズマ応用 1 (プラズマ気相成長) 10. プラズマ応用 2 (プラズマエッチング) 		
●教科書		
菅井秀郎編著「プラズマエレクトロニクス」 (オーム社)		
●参考書		
<p>M. A. Lieberman and A. J. Lichtenberg, Principles of Plasma Discharges and Materials Processing (John Wiley & Sons, Inc., 1994) F. F. Chen and J. P. Chang, Lecture Notes on Principles of Plasma Processing (Kluwer Academic/ Plenum Publishers, 2003)</p>		
●成績評価の方法		
達成目標に対する評価の重みは同等である。レポートにより評価し、100点満点で55点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義	前期課程
	電磁応用計測特論	(2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1 年後期 2 年後期	
教員	河野 明廣 教授 林 俊佳 教授 佐々木 浩一 准教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
<p>マイクロ波、赤外線、可視光線、紫外線を含む幅広いスペクトル領域の電磁波を、電気電子工学分野の計測 (特に集積プロセスにかかわる計測) に応用するための理論的・技術的基礎について学ぶ。</p>		
●バックグラウンドとなる科目		
電磁気学、プラズマ工学、量子エレクトロニクス、固体物性基礎論		
●授業内容		
<p>以下の分野から適宜主題が選択される。詳細な講義内容は第1回目の講義に示される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 電磁波の放射の基礎理論 (古典論・量子論) 2. 原子・分子分光学の基礎 3. 電磁波とプラズマの相互作用 4. レーザー・分光光源および光検出器 5. 電磁波・光によるプラズマ計測各論 		
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法		
レポートまたは試験		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義	
	ナノプロセス工学特論 (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年後期 2年後期	
教員	堀 勝 教授 関根 誠 教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
<p>ナノエレクトロニクス、ナノフォトニクス、バイオナノテクノロジーのためのナノ領域での原子、分子、ラジカル反応およびその操作原理を学び、先端ナノデバイス・システムを形成するためのナノプロセスの設計指針について講義する。 達成目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ナノプロセスに必要な原子・分子反応手法を用いてナノプロセスを設計できる。 2. 先端デバイス・プロセスを理解し、説明できる。 		
●バックグラウンドとなる科目		
半導体工学、プラズマ工学、量子エレクトロニクス		
●授業内容		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 原子、分子、ラジカル反応場の基礎、2. 原子、分子操作技術、3. トップダウン型超微細加工、4. ボトムアップ型自己組織化プロセス、5. 半導体プラズマナノプロセス、6. uLSI超最先端デバイスプロセス、7. 量子コンピュータープロセス、8. バイオナノプロセス、9. フォトニックナノデバイスプロセス、10. ナノ反応場計測技術 		
●教科書		
資料を配布する。		
●参考書		
なし		
●成績評価の方法		
レポートあるいは筆記試験により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義	
	粒子線工学特論 (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期 2年前期	
教員	丹司 敬義 教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
物質の微細原子構造、電気・磁気構造を理解するために電子顕微鏡の基礎、構造、応用について講義する。		
●バックグラウンドとなる科目		
電磁気学I、II、真空電子工学		
●授業内容		
<ol style="list-style-type: none"> 1-1- 微細原子構造の直接観察法 2-1- 透過電子顕微鏡の構造 3-1- 高分解能電子顕微鏡法の理論と応用 4-1- 電子線ホログラフィの理論と応用 5-1- 分析電子顕微鏡法 		
●教科書		
特に指定せず。必要に応じてプリントを配付。		
●参考書		
なし		
●成績評価の方法		
質疑応答 および レポート		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義	前期課程
	磁性体工学特論 (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期 2年前期	結晶材料工学専攻 2年前期
教員	網島 滋 教授 岩田 聡 教授 加藤 剛志 准教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
<p>磁性物理、磁性材料、磁性デバイスに関する基礎とその応用について講義する。 達成目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 磁性の基礎概念の理解。 2. 強磁性体の磁気特性の理解。 3. 強磁性体の新しい応用例の習得 		
●バックグラウンドとなる科目		
電気磁気学、電気物性基礎論、固体電子工学、磁性体工学		
●授業内容		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 種々の秩序磁性 2. 磁気異方性と磁気ひずみ 3. 磁区構造と磁化機構 4. 磁性の微視的実験 5. 磁気記録からMRAMまで 		
●教科書		
なし		
●参考書		
近角聡信, 強磁性体の物理 (上) (下), 裳華房		
●成績評価の方法		
筆記達成目標に対する評価の重みは同等である。試験で評価し、100点満点で55点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義	
	半導体工学特論 (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期 2年前期	
教員	澤木 宣彦 教授 山口 雅史 准教授 田中 成泰 准教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
マイクロエレクトロニクス、フォトニクスのための半導体デバイス、量子デバイスの物理と原理を学び、新デバイス設計指針を習得する。		
●バックグラウンドとなる科目		
量子力学、固体電子工学、半導体工学		
●授業内容		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 半導体物性 化合物半導体の基礎物性、電子・光閉じこめ構造、量子効果 2. 結晶成長 化合物半導体の結晶成長、分子線エビタキシー、有機金属気相成長 3. 結晶構造解析 X線・電子線回折、電子顕微鏡、走査プローブ顕微鏡 4. 二次元電子系 電子状態、散乱過程、HEMT、電流磁気効果、量子ホール効果、バリスティック伝導 5. トンネル効果 トンネル効果の理論、トンネル分光、共鳴トンネル効果、単一電子トンネル現象 6. 励起子と光非線形性 励起子、非線形分極、光散乱、極微細構造(量子点、量子反点、ホトニクス結晶等) 		
●教科書		
特になし		
●参考書		
機能材料のための量子工学；山田興治他(講談社サイエンティフィック) Fundamentals of Semiconductors, P.Y.Yu他(Springer)		
●成績評価の方法		
レポート(100%)あるいは筆記試験(100%)により評価する。		
履修条件・注意事項等：なし		
質問への対応：講義終了時に対応		
今年度担当教員連絡先： 3638 yamaguti@nagoya-u.jp 5277 tanaka@nuee.nagoya-u.ac.jp		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義	前期課程
	情報デバイス工学特論 (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期 2年前期	
教員	中里 和郎 教授 内山 剛 准教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
最新のMOSテクノロジーの動向を把握する。デバイス構造と動作原理を理解し、CMOS集積回路の設計法を習得する。 達成目標 1. CMOSデバイスの素子構造からの動作特性理解 2. CMOS集積回路の設計法の習得		
●バックグラウンドとなる科目		
電磁気学、磁性体工学、半導体工学、電子回路工学		
●授業内容		
1. 電子デバイスの概要 2. アナログとデジタル 3. MOSテクノロジーの動向 4. MOSデバイス物理の基礎 5. プロセス技術 6. CMOS集積回路の特徴 7. 基本特性とシミュレーション技術 8. 基本回路 9. ロジック集積回路 10. アナログ集積回路 11. スイッチ・キャパシタ集積回路 12. メモリ集積回路		
●教科書		
http://www.nuee.nagoya-u.ac.jp/labs/nakazatolab/nakazato/lids.htm		
●参考書		
小柳光正、「サブミクロンデバイス I, II」 丸善株式会社 W.J.Dally and J.W.Poulton, "Digital Systems Engineering," Cambridge University Press, 1998 B.Razavi 著、黒田忠弘訳「アナログCMOS集積回路の設計 基礎編、応用編」丸善株式会社		
●成績評価の方法		
レポート		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義	前期課程
	ナノデバイス工学特論 (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年後期 2年後期	量子工学専攻 1年後期 2年後期
教員	水谷 幸 教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
本講義は、学部で学んだ半導体に関する知識をベースとして、ナノデバイスの研究を行うために必要な応用力を身につけることを目的とする。特に、学部レベルの講義と研究とのギャップを埋めるため、近似の適用範囲やバンド図の書き方について具体的例をあげて説明する。達成目標 1. 半導体電子輸送特性を理解し、説明できる。 2. 重要な半導体ナノデバイスに関し、その動作原理・特性を理解し、説明できる。		
●バックグラウンドとなる科目		
電気物性基礎論、半導体工学、量子力学		
●授業内容		
1 Blochの定理の意味とk空間 2 Brillouin zone 3 有効質量とBloch振動 4 1, 2, 3次元における状態密度 5 電子統計 6 高強度不純物ドーパド半導体 7 ヘテロ接合 8 バイポーラトランジスタ、ヘテロ接合バイポーラトランジスタ 9 MOSFET 10 高電子移動度トランジスタ (HEMT) 11 高周波特性評価と高速デバイス設計 12 ナノデバイス、量子デバイス		
●教科書		
なし		
●参考書		
なし		
●成績評価の方法		
レポート(10%)、筆記試験(90%)により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義	前期課程
	量子集積デバイス工学特論 (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期 2年前期	量子工学専攻 1年前期 2年前期
教員	藤巻 朗 教授 井上 真澄 講師	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
単一磁束量子を利用するデバイスについての基礎と応用を学ぶ。		
●バックグラウンドとなる科目		
量子力学、固体電子工学、電子デバイス工学		
●授業内容		
1. 超伝導の物理 2. 磁束の量子化 3. ジョセフソン接合 4. 超伝導量子干渉素子 (SQUID) 5. 単一磁束量子回路 6. 単一磁束量子回路の応用		
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法		
レポートあるいは筆記試験		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義	前期課程
	光量子工学特論 (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 2年後期	量子工学専攻 2年後期
教員	川瀬 晃道 教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
レーザー理論・技術およびレーザー応用一般に関するアドバンスレベルの講述を行う。また、非線形光学効果に関する学習を行う。さらにテラヘルツ工学に関する理解を深める。		
●バックグラウンドとなる科目		
電磁気学、光学、分光学		
●授業内容		
1. レーザーの基礎 2. 各種レーザー技術 3. レーザー応用一般 4. 非線形光学 5. テラヘルツ工学		
●教科書		
教科書については年度初めに適宜選定する。		
●参考書		
必要に応じて講義の中で紹介する。		
●成績評価の方法		
レポートまたは小テスト。 質問への対応：講義終了時に対応する。		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義	前期課程	前期課程
	電子情報システム特別講義Ⅰ	(1単位)	
対象専攻・分野 開講時期	電気工学分野 1年前期 2年前期	電子工学分野 1年前期 2年前期	情報・通信工学分野 1年前期 2年前期
教員	非常勤講師(電気) 非常勤講師(電子) 非常勤講師(情通)		
備考			
●本講座の目的およびねらい	電子情報システムの最先端の話題について、その分野の専門家が講義する。		
●バックグラウンドとなる科目			
●授業内容	電子情報システムに関する最先端の話題		
●教科書			
●参考書			
●成績評価の方法			

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義	前期課程	前期課程
	電子情報システム特別講義Ⅱ	(1単位)	
対象専攻・分野 開講時期	電気工学分野 1年後期 2年後期	電子工学分野 1年後期 2年後期	情報・通信工学分野 1年後期 2年後期
教員	非常勤講師(電気) 非常勤講師(電子) 非常勤講師(情通)		
備考			
●本講座の目的およびねらい	電子情報システムの最先端の話題について、その分野の専門家が講義する。		
●バックグラウンドとなる科目			
●授業内容	電子情報システムに関する最先端の話題		
●教科書			
●参考書			
●成績評価の方法			

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 実験及び演習	前期課程	前期課程
	集積プロセス特別実験及び演習	(2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期後期		
教員	豊田 浩孝 教授 石島 達夫 助教		
備考			
●本講座の目的およびねらい	プラズマ工学の技術的基礎に関する理解を深めるとともに、工学的素養を高める。		
●バックグラウンドとなる科目	プラズマ工学, 真空電子工学		
●授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. プラズマ計測・診断技術 2. プラズマによる薄膜の作成と評価技術 3. 真空システムの設計・計測・制御技術などから選択 		
●教科書			
●参考書			
●成績評価の方法	レポート		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 実験及び実習	前期課程	前期課程
	集積プロセス特別実験及び演習	(2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期後期		
教員	河野 明廣 教授 荒巻 光利 助教		
備考			
●本講座の目的およびねらい	集積プロセスに関わる、レーザー・光計測技術、プラズマ生成・制御技術の基礎を習得する。		
●バックグラウンドとなる科目	電気磁気学, 量子エレクトロニクス, プラズマ工学, 真空電子工学		
●授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. レーザー計測技術 2. 分光計測技術 3. プラズマの生成と制御 		
●教科書			
●参考書			
●成績評価の方法	レポート		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 実験及び演習	
	集積プロセス特別実験及び演習 (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期後期	
教員	丹司 敬義 教授 川口 忠寛 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
電子線の発生、制御および応用に関する技術的基礎を修得する。		
●バックグラウンドとなる科目		
電磁気学、真空電子工学		
●授業内容		
1. 電子源 2. 電子レンズ 3. 電子線検出技術 4. 電子エネルギー分光技術 5. 電子光学系設計・製作技術 等から選択		
●教科書		
なし		
●参考書		
なし		
●成績評価の方法		
レポート		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 実験及び演習	
	集積プロセス特別実験及び演習 (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期後期	
教員	佐々木 浩一 准教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
プラズマプロセスおよびレーザープロセスに関する基礎研究のために必要であり、且つ 応用技術としても重要な実験技術を得得する。		
●バックグラウンドとなる科目		
プラズマ工学、レーザー工学		
●授業内容		
1. プラズマ生成技術, 2. 粒子計測技術, 3. 分光計測技術, 4. プラズマプロセス技術, 5. レーザーアブレーション技術などから選択		
●教科書		
なし		
●参考書		
なし		
●成績評価の方法		
実験・実習における進捗状況およびそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。 また、必要に応じてレポートの提出を課し、評価する。100点満点で55点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 実験及び演習	
	情報デバイス特別実験及び演習 (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期後期	
教員	網島 滋 教授 岩田 聡 教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
磁性薄膜材料およびデバイスの作製・評価技術を修得する。		
●バックグラウンドとなる科目		
電気物性基礎論、固体電子工学、磁性体工学、誘電体工学		
●授業内容		
1. 薄膜蒸着技術 2. 薄膜スパッタ技術 3. 人工格子膜成長技術 4. 微細加工技術 5. 磁性薄膜・微細加工デバイス評価技術		
●教科書		
なし		
●参考書		
なし		
●成績評価の方法		
レポート		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 実験及び演習	
	情報デバイス特別実験及び演習 (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期後期	
教員	澤木 彦彦 教授 山口 雅史 准教授 本田 善央 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
情報デバイスの中心となる半導体エレクトロニクスの技術的基礎に関する理解を深めるとともに、工学の素養を修得する。		
●バックグラウンドとなる科目		
半導体工学、電子デバイス工学		
●授業内容		
1. 半導体結晶育成技術 2. 半導体材料加工技術 3. 半導体材料評価技術 4. マイクロデバイス設計・作製技術 5. マイクロデバイス特性評価技術などから選択		
●教科書		
特になし		
●参考書		
なし		
●成績評価の方法		
レポート (100%)		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 実験
	情報デバイス特別実験及び演習 (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期後期
教員	中里 和郎 教授 内山 剛 准教授 宇野 重康 助教
備考	
●本講座の目的およびねらい	
マイクロセンサによる高度センシングシステムの構築を通して、先端情報デバイスに関する知識を深化させる。	
●バックグラウンドとなる科目	
電磁気学, 電子回路工学, デジタル信号処理	
●授業内容	
マイクロ磁気センサを用いた車両通行計測システムの構築を行う。	
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	
レポート	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 実験及び演習
	情報デバイス特別実験及び演習 (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期後期
教員	田中 成泰 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	
電子線を利用したデバイス評価技術の基礎を習得する。	
●バックグラウンドとなる科目	
固体電子工学, 電子デバイス光学	
●授業内容	
1. 高分解能電子顕微鏡法の基礎と応用 2. 分析電子顕微鏡法の基礎と応用 3. 走査電子顕微鏡法の基礎と応用	
●教科書	
輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する	
●参考書	
なし	
●成績評価の方法	
レポートおよび口頭試験。50%、50%。	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 実験及び演習
	量子デバイス特別実験及び演習 (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期後期
教員	水谷 孝 教授 藤巻 朗 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	
光量子工学, 超伝導エレクトロニクス, 半導体量子デバイスの基礎と応用に関する理解を深めるため、下記の課題について演習を行う。	
●バックグラウンドとなる科目	
量子力学, 電磁気学, 光学, 分光学, 固体電子工学, 半導体デバイス工学	
●授業内容	
<ol style="list-style-type: none"> 1. レーザー基礎理論 2. レーザー分光学 3. 量子光学理論 4. レーザー分光計測技術 5. レーザー光通信技術 6. 金属超伝導薄膜成長技術 7. 酸化物超伝導薄膜成長技術 8. 微細加工技術 9. ジョセフソン接合作成技術 10. 半導体薄膜作製技術 11. 半導体ヘテロ構造作製技術 12. ナノ構造加工技術 13. 量子デバイス計作製技術 14. 量子デバイス特性評価技術 などから選択	
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	
レポート	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 総合工学科目 実験及び演習
	高度総合工学創造実験 (3単位)
対象専攻・分野 開講時期	全専攻・分野共通 1年前期後期 2年前期後期
教員	松村 年郎 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	
異なる専門分野からなる数人のチームを編成し、企業からの非常勤講師(Directing Professor)の下に自主的研究を行う。その目的およびねらいは ・異種集団グループダイナミクスによる創造性の活性化 ・異種集団グループダイナミクスならではの発見、発見体験 ・自己専門の可能性と限界の認識 ・自らの能力で知識を総合化することである。	
●バックグラウンドとなる科目	
「高度総合工学創造実験」は、産学連携教育科目と位置づけられる。また、「ベンチャービジネス特論I, II」および学部開講科目「特許および知的財産」、「経営工学」、「産業と経済」、「工学倫理」は産学連携教育関連科目と位置づけられる。これらの科目の履修を強く推奨する。	
●授業内容	
異なる専攻・学部の学生からなる数人で1チームを編成し、Directing Professorの指導の下に設定したプロジェクトを60時間(3カ月) [週1日]にわたりTA(ティーチングアシスタント)とともに遂行する。1週間のとりまとめ・準備の後、各チーム毎に発表および展示・討論を行う。	
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	
実験の遂行、討論と発表会	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 総合工学科目 実習 研究インターンシップ (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	全専攻・分野共通 1年前期後期 2年前期後期
教員	松村 年郎 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して研究テーマを設定し、両者の指導の下で1～6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えた人材の育成を目指す。
●バックグラウンドとなる科目	「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論I」または「同II」を受講することが強く推奨される。
●授業内容	<ul style="list-style-type: none"> 企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。 学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める。 1～6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。 終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。
●教科書	なし
●参考書	なし
●成績評価の方法	企業において研究インターンシップに従事した総日数20日以下のものに与えられる。

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 総合工学科目 実習 研究インターンシップ (3単位)
対象専攻・分野 開講時期	全専攻・分野共通 1年前期後期 2年前期後期
教員	松村 年郎 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して研究テーマを設定し、両者の指導の下で1～6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えた人材の育成を目指す。
●バックグラウンドとなる科目	「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論I」または「同II」を受講することが強く推奨される。
●授業内容	<ul style="list-style-type: none"> 企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。 学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める。 1～6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。 終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。
●教科書	なし
●参考書	なし
●成績評価の方法	企業において研究インターンシップに従事した総日数21日以上40日以下のものに与えられる。

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 総合工学科目 実習 研究インターンシップ (4単位)
対象専攻・分野 開講時期	全専攻・分野共通 1年前期後期 2年前期後期
教員	松村 年郎 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して研究テーマを設定し、両者の指導の下で1～6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えた人材の育成を目指す。
●バックグラウンドとなる科目	「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論I」または「同II」を受講することが強く推奨される。
●授業内容	<ul style="list-style-type: none"> 企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。 学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める。 1～6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。 終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。
●教科書	なし
●参考書	なし
●成績評価の方法	企業において研究インターンシップに従事した総日数41日以上のものに与えられる。

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 総合工学科目 講義 最先端理工学特論 (1単位)
対象専攻・分野 開講時期	全専攻・分野共通 1年前期後期 2年前期後期
教員	田淵 雅夫 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	工学における最先端研究の動向を学び、また、その研究を行うために必要な高度な知識を習得させることを目的とする。
●バックグラウンドとなる科目	
●授業内容	最先端工学に関する特別講義を受講し、また、最先端工学の研究発表が行われるシンポジウムやセミナーへ参加し、レポートを提出する。
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	レポート

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 総合工科学目 実験
	最先端理工学実験 (1単位)
対象専攻・分野 開講時期	全専攻・分野共通 1年前期後期 2年前期後期
教員	山根 隆 教授 田淵 雅夫 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	工学における最先端研究の動向を学び、また、その研究を行うために必要な高度な実験に関する技術を習得することを目的とする。
●バックグラウンドとなる科目	
●授業内容	あらかじめ設定された実験(課題実験)あるいは受講者が提案する実験(独創実験)のいずれからテーマを選択し、実験を行う。
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	研究成果発表とレポート

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 総合工科学目 講義
	コミュニケーション学 (1単位)
対象専攻・分野 開講時期	全専攻・分野共通 1年後期 2年後期
教員	古谷 礼子 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	母国語でない言葉で論文を上手に発表するために必要な留意事項を学ぶ。留学生は日本語で発表する。日本人学生も受講することができるが、発表は英語で行う。
●バックグラウンドとなる科目	
●授業内容	(1) ビデオ録画された論文発表を見る モデル発表を見てよい発表とは何かを討論し、発表するに必要なテクニックを学ぶ (2) 発表する クラスで討論した発表のテクニックを用いて、学生各自が主題を選んで論文を発表する (3) 討論する クラスメイトの発表を相互に評価し合う きびしい意見。激励や助言をお互いに交わす
●教科書	なし
●参考書	(1) 「英語プレゼンテーションの技術」 安田 正、ジャック ニクリン著 The Japan Times (2) 「研究発表の方法 留学生のためのレポート作成 口頭発表の準備の手続き」 産能短期大学日本語教育研究室著 凡人社
●成績評価の方法	発表論文とclass discussion(平常点)の結果による

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 総合工科学目 講義
	ベンチャービジネス特論Ⅰ (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	全専攻・分野共通 1年前期 2年前期
教員	田淵 雅夫 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	我が国の産業のバックグラウンド又は最先端を担うべきベンチャー企業の層が薄いことは頻りに指摘される。その原因の一部は、制度の違いによるが、欧米の研究者や大学生との意識の差に起因する所も少なくない。本講座では、「大学の研究」を事業化/起業する際の技術者・研究者として必要な知識と目標を明確に教授する。大学の研究成果をベースにした技術開発・事業化、企業内起業やベンチャー起業の実例を示す。
●バックグラウンドとなる科目	卒業研究、修士課程の研究
●授業内容	1. 事業化と起業 なぜベンチャー起業か ---リスクとメリット--- 2. 事業化と起業の知識と準備 ---技術者・研究者として抑えるべきポイント--- 3. 大学の研究から事業化・起業へ ---企業における研究開発の進め方--- 4. 事業化の推進 ---事業化のための様々な交渉と市場調査--- 5. 名大発の事業化と起業(1): 電子デバイス分野 6. 名大発の事業化と起業(2): 金属、材料分野 7. 名大発の事業化と起業(3): パイオ、医薬分野 8. 名大発の事業化と起業(4): 加工装置分野 9. 名大発の事業化と起業(4): 化学分野 10. まとめ
●教科書	適宜資料配布
●参考書	適宜指導
●成績評価の方法	レポート提出および出席

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 総合工科学目 講義
	ベンチャービジネス特論Ⅱ (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	全専攻・分野共通 1年後期 2年後期
教員	田淵 雅夫 准教授 枝川 明敬 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	前期Ⅰにおいて講義された事業化、企業内起業やベンチャー起業の実例等を参考に、起業化や創業のために必要不可欠な専門的な知識を公認会計士や中小企業診断士等の専門家を交えて講義する。受講生の知識の範囲を考慮し、前半では経営学の基本的知識の起業化への応用と展開について教授し、後半では、経営戦略、ファイナンスといったMBAで通常講義されている内容の基礎を理解してもらい、受講の前提として、身近な起業化の例を講義する前期Ⅰを受講するのが望ましい。
●バックグラウンドとなる科目	ベンチャービジネス特論Ⅰ、卒業研究、修士課程の研究、経営学、経済学の基礎知識があればなおよい。
●授業内容	1. 日本経済とベンチャービジネス 2. ベンチャービジネスの現状 3. ベンチャーと経営戦略 4. ベンチャーとマーケティング戦略 5. ベンチャーと企業会計 6. ベンチャーと財務戦略 7. 事例研究(経営戦略に重点) 8. 事例研究(マーケティング戦略に重点) 9. 事例研究(財務戦略に重点) 10. 事例研究(資本政策に重点) 4- IPO企業 11. ビジネスプラン ビジネス・アイデアと競争優位 12. ビジネスプラン 収益計画 13. ビジネスプラン 資金計画 14. ビジネスプラン ビジネスプランの運用とまとめ 15. まとめ
●教科書	適宜資料配布
●参考書	適宜指導
●成績評価の方法	授業中に出席される課題

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 総合工科学科目 実習	前期課程	前期課程
	学外実習A (1単位)		
対象専攻・分野 開講時期	電気工学分野 1年前期後期 2年前期後期	電子工学分野 1年前期後期 2年前期後期	情報・通信工学分野 1年前期後期 2年前期後期
教員	各教員(電気工学) 各教員(電子工学) 各教員(情報通信)		
備考			
●本講座の目的およびねらい			
●バックグラウンドとなる科目			
●授業内容			
●教科書			
●参考書			
●成績評価の方法			

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 総合工科学科目 実習	前期課程	前期課程
	学外実習B (1単位)		
対象専攻・分野 開講時期	電気工学分野 1年前期後期 2年前期後期	電子工学分野 1年前期後期 2年前期後期	情報・通信工学分野 1年前期後期 2年前期後期
教員	各教員(電気工学) 各教員(電子工学) 各教員(情報通信)		
備考			
●本講座の目的およびねらい			
●バックグラウンドとなる科目			
●授業内容			
●教科書			
●参考書			
●成績評価の方法			

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー
	集積プロセスセミナーI 2A (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期
教員	豊田 浩孝 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	プラズマの科学技術に関連するテキストの輪講、学術論文の紹介、自分の研究の発表・討論を通じ、プラズマ工学の基礎を学び、応用力を身につける。 到達目標 1. プラズマの生成・診断・応用技術の基礎を理解し応用できる。 2. 当該分野の最新論文を理解し説明できる。
●バックグラウンドとなる科目	プラズマ工学、電気磁気学
●授業内容	1. 放電物理 2. プラズマ物性 3. プラズマ・表面相互作用 4. プラズマ材料プロセス
●教科書	輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を選定する。
●参考書	菅井秀郎編著「プラズマエレクトロニクス」(オーム社)； M. Lieberman and A. Lichtenberg, Principles of Plasma Discharges and Materials Processing (John Wiley, 1994)； F. Chen and J. Chang, Lecture Notes on Principles of Plasma Processing (Kluwer Academic, 2003)
●成績評価の方法	レポートあるいは口述試験

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー
	集積プロセスセミナーI 2A (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期
教員	河野 明廣 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	集積プロセスの計測・制御に関わる諸問題を理解するため、分光学、光・レーザー技術に関する専門書、学術論文を選び輪講する。
●バックグラウンドとなる科目	電気磁気学、量子エレクトロニクス、プラズマ工学、真空電子工学
●授業内容	1. 原子・分子分光学 2. 電子分光学 3. 非線形光学 4. レーザー計測
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により評価する。

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 集積プロセスセミナー I 2 A (2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1 年前期
教員	丹司 敬義 教授
備考	
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>電子線、イオン線等の粒子の発生、制御 および 電子、イオン機器と、その応用に関してテキスト、文献を用いて輪講する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>電磁気学I、II および 真空電子工学</p> <p>●授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 電子線、イオン線の発生 2. 電子線、イオン線の制御 3. 電子線、イオン線機器 <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●成績評価の方法</p> <p>口述試験</p>	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 集積プロセスセミナー I 2 A (2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1 年前期
教員	佐々木 浩一 准教授
備考	
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>集積プロセス工学を研究するために必要なテキストおよび文献を輪読・発表し、特に、プラズマプロセス工学およびレーザープロセス工学の基礎事項を習得すると共に関連分野の研究動向および研究課題について理解する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>電磁気学、プラズマ物理学、レーザー工学、量子エレクトロニクス</p> <p>●授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 原子分子物理学、2. プラズマ診断工学、3. プラズマ・表面相互作用、4. レーザーアブレーション、5. プラズマプロセスおよび材料プロセス応用 <p>●教科書</p> <p>輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。</p> <p>●参考書</p> <p>なし</p> <p>●成績評価の方法</p> <p>セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。</p>	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 集積プロセスセミナー I 2 B (2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1 年後期
教員	豊田 浩学 教授
備考	
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>プラズマの科学技術に関連するテキストの輪講、学術論文の紹介、自分の研究の発表・討論を通し、プラズマ工学の基礎を学び、応用力を身につける。到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プラズマの生成・診断・応用技術の基礎を理解し応用できる。 2. 当該分野の最新論文を理解し説明できる。 <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>プラズマ工学、電気磁気学</p> <p>●授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 放電物理 2. プラズマ物性 3. プラズマ・表面相互作用 4. プラズマ材料プロセス <p>●教科書</p> <p>輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。</p> <p>●参考書</p> <p>菅井秀郎編著「プラズマエレクトロニクス」(オーム社) ; M. Lieberman and A. Lichtenberg, Principles of Plasma Discharges and Materials Processing (John Wiley, 1994) ; F. Chen and J. Chang, Lecture Notes on Principles of Plasma Processing (Kluwer Academic, 2003)</p> <p>●成績評価の方法</p> <p>レポートあるいは口述試験</p>	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 集積プロセスセミナー I 2 B (2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1 年後期
教員	河野 明廣 教授
備考	
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>集積プロセスの計測・制御に関わる諸問題を理解するため、分光学、光・レーザー技術に関する専門書、学術論文を選び輪講する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>電気磁気学、量子エレクトロニクス、プラズマ工学、真空電子工学</p> <p>●授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 原子・分子分光学 2. 電子分光学 3. 非線形光学 4. レーザー計測 <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●成績評価の方法</p> <p>セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により評価する。</p>	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 集積プロセスセミナーⅠ 2 B (2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年後期
教員	丹司 敬義 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	
電子線、イオン線等の粒子の発生、制御 および 電子、イオン機器と、その応用に關してテキスト、文献を用いて輪講する。	
●バックグラウンドとなる科目	
電磁気学Ⅰ、Ⅱ および 真空電子工学	
●授業内容	
1. 電子線、イオン線の発生 2. 電子線、イオン線の制御 3. 電子線、イオン線機器	
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	
口述試験	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 集積プロセスセミナーⅠ 2 B (2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年後期
教員	佐々木 浩一 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	
集積プロセス工学を研究するために必要なテキストおよび文献を輪読・発表し、特に、プラズマプロセス工学およびレーザープロセス工学の基礎事項を習得すると共に関連分野の研究動向および研究課題について理解する。	
●バックグラウンドとなる科目	
電磁気学、プラズマ物理学、レーザー工学、量子エレクトロニクス	
●授業内容	
1. 原子分子物理学、 2. プラズマ診断工学、 3. プラズマ・表面相互作用、 4. レーザーアブレーション、 5. プラズマプロセスおよび材料プロセス応用	
●教科書	
輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。	
●参考書	
なし	
●成績評価の方法	
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 集積プロセスセミナーⅠ 2 C (2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 2年前期
教員	豊田 浩幸 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	
プラズマの科学技術に關するテキストの輪講、学術論文の紹介、自分の研究の発表・討論を通し、プラズマ工学の基礎を学び、応用力を身につける。 到達目標 1. プラズマの生成・診断・応用技術の基礎を理解し応用できる。 2. 当該分野の最新論文を理解し説明できる。	
●バックグラウンドとなる科目	
プラズマ工学、電磁気学	
●授業内容	
1. 放電物理 2. プラズマ物性 3. プラズマ・表面相互作用 4. プラズマ材料プロセス	
●教科書	
輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。	
●参考書	
菅井秀郎編著「プラズマエレクトロニクス」(オーム社) ; M. Lieberman and A. Lichtenberg, Principles of Plasma Discharges and Materials Processing (John Wiley, 1994) ; F. Chen and J. Chang, Lecture Notes on Principles of Plasma Processing (Kluwer Academic, 2003)	
●成績評価の方法	
レポートあるいは口述試験	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 集積プロセスセミナーⅠ 2 C (2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 2年前期
教員	河野 明廣 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	
集積プロセスの計測・制御に關する諸問題を理解するため、分光学、光・レーザー技術に關する専門書、学術論文を選び輪講する。	
●バックグラウンドとなる科目	
電磁気学、量子エレクトロニクス、プラズマ工学、真空電子工学	
●授業内容	
1. 原子・分子分光学 2. 電子分光学 3. 非線形光学 4. レーザー計測	
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により評価する。	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー
集積プロセスセミナー I 2 C (2 単位)	
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 2 年前期
教員	丹司 敬義 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい 微細な原子構造や電磁気構造の高分解能観察法および高精度計測法の基礎と材料研究への応用に関するテキストや文献を選び輪講する。	
●バックグラウンドとなる科目 電磁気学 I, II および 真空電子工学 物性基礎論、数学 2	
●授業内容 1. 高分解能電子顕微鏡法の基礎と応用 2. 分析電子顕微鏡法の基礎と応用 3. 走査電子顕微鏡法の基礎と応用 4. 電子線ホログラフィの基礎と応用 5. X線顕微鏡法の基礎と応用	
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法 口述試験	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー
集積プロセスセミナー I 2 C (2 単位)	
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 2 年前期
教員	佐々木 浩一 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい 集積プロセス工学を研究するために必要なテキストおよび文献を輪講・発表し、特に、プラズマプロセス工学およびレーザープロセス工学の基礎事項を習得すると共に関連分野の研究動向および研究課題について理解する。	
●バックグラウンドとなる科目 電磁気学、プラズマ物理学、レーザー工学、量子エレクトロニクス	
●授業内容 1. 原子分子物理学、 2. プラズマ診断工学、 3. プラズマ・表面相互作用、 4. レーザーアブレーション、 5. プラズマプロセスおよび材料プロセス応用	
●教科書 輪講する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。	
●参考書 なし	
●成績評価の方法 セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー
集積プロセスセミナー I 2 D (2 単位)	
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 2 年後期
教員	豊田 浩孝 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい プラズマの科学技術に関連するテキストの輪講、学術論文の紹介、自分の研究の発表・討論を通し、プラズマ工学の基礎を学び、応用力を身につける。到達目標 1. プラズマの生成・診断・応用技術の基礎を理解し応用できる。 2. 当該分野の最新論文を理解し説明できる。	
●バックグラウンドとなる科目 プラズマ工学、電磁気学	
●授業内容 1. 放電物理 2. プラズマ物性 3. プラズマ・表面相互作用 4. プラズマ材料プロセス	
●教科書 輪講する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。	
●参考書 菅井秀郎編著「プラズマエレクトロニクス」(オーム社) ; M. Lieberman and A. Lichtenberg, Principles of Plasma Discharges and Materials Processing (John Wiley, 1994) ; F. Chen and J. Chang, Lecture Notes on Principles of Plasma Processing (Kluwer Academic, 2003)	
●成績評価の方法 レポートあるいは口述試験	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー
集積プロセスセミナー I 2 D (2 単位)	
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 2 年後期
教員	河野 明廣 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい 集積プロセスの計測・制御に関わる諸問題を理解するため、分光学、光・レーザー技術に関する専門書、学術論文を選び輪講する。	
●バックグラウンドとなる科目 電磁気学、量子エレクトロニクス、プラズマ工学、真空電子工学	
●授業内容 1. 原子・分子分光学 2. 電子分光学 3. 非線形光学 4. レーザー計測	
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法 セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により評価する。	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー
	集積プロセスセミナーⅠ 2D (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 2年後期
教員	丹司 敬義 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	
微細な原子構造や電磁気構造の高分解能観察法および高精度計測法の基礎と材料研究への応用に関するテキストや文献を選び講義する。	
●バックグラウンドとなる科目	
電磁気学Ⅰ、Ⅱ および 真空電子工学 物性基礎論、数学Ⅱ	
●授業内容	
1. 高分解能電子顕微鏡法の基礎と応用 2. 分析電子顕微鏡法の基礎と応用 3. 走査電子顕微鏡法の基礎と応用 4. 電子線ホログラフィの基礎と応用 5. X線顕微鏡法の基礎と応用	
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	
口述試験	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー
	集積プロセスセミナーⅠ 2D (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 2年後期
教員	佐々木 浩一 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	
集積プロセス工学を研究するために必要なテキストおよび文献を輪読・発表し、特に、プラズマプロセス工学およびレーザープロセス工学の基礎事項を習得すると共に関連分野の研究動向および研究課題について理解する。	
●バックグラウンドとなる科目	
電磁気学、プラズマ物理学、レーザー工学、量子エレクトロニクス	
●授業内容	
1. 原子分子物理学、 2. プラズマ診断工学、 3. プラズマ・表面相互作用、 4. レーザーアブレーション、 5. プラズマプロセスおよび材料プロセス応用	
●教科書	
輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。	
●参考書	
なし	
●成績評価の方法	
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー
	集積プロセスセミナーⅠ 2E (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 3年前期
教員	豊田 浩季 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	
プラズマの科学技術に関連するテキストの輪読、学術論文の紹介、自分の研究の発表・討論を通し、プラズマ工学の基礎を学び、応用力を身につける。到達目標 1. プラズマの生成・診断・応用技術の基礎を理解し応用できる。 2. 当該分野の最新論文を理解し説明できる。	
●バックグラウンドとなる科目	
プラズマ工学、電磁気学	
●授業内容	
1. 放電物性 2. プラズマ物性 3. プラズマ・表面相互作用 4. プラズマ材料プロセス	
●教科書	
輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。	
●参考書	
菅井秀郎編著「プラズマエレクトロニクス」(オーム社)； M. Lieberman and A. Lichtenberg, Principles of Plasma Discharges and Materials Processing (John Wiley, 1994)； F. Chen and J. Chang, Lecture Notes on Principles of Plasma Processing (Kluwer Academic, 2003)	
●成績評価の方法	
レポートあるいは口述試験	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー
	集積プロセスセミナーⅠ 2E (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 3年前期
教員	河野 明廣 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	
集積プロセスの計測・制御に関する諸問題を理解するため、分光学、光・レーザー技術に関する専門書、学術論文を選び輪読する。	
●バックグラウンドとなる科目	
電気磁気学、量子エレクトロニクス、プラズマ工学、真空電子工学	
●授業内容	
1. 原子・分子分光学 2. 電子分光学 3. 非線形光学 4. レーザー計測	
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により評価する。	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 集積プロセスセミナーⅠ 2 E (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 3年前期
教員	丹司 敬義 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい 微細な原子構造や電磁気構造の高分解能観察法および高精度計測法の基礎と材料研究への応用に関するテキストや文献を選び輪講する。	
●バックグラウンドとなる科目 電磁気学Ⅰ,Ⅱ および 真空電子工学 物性基礎論、数学2	
●授業内容 1. 高分解能電子顕微鏡法の基礎と応用 2. 分析電子顕微鏡法の基礎と応用 3. 走査電子顕微鏡法の基礎と応用 4. 電子線ホログラフィの基礎と応用 5. X線顕微鏡法の基礎と応用	
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法 口述試験	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 集積プロセスセミナーⅠ 2 E (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 3年前期
教員	佐々木 浩一 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい 集積プロセス工学を研究するために必要なテキストおよび文献を輪読・発表し、特に、プラズマプロセス工学およびレーザープロセス工学の基礎事項を習得すると共に関連分野の研究動向および研究課題について理解する。	
●バックグラウンドとなる科目 電磁気学、プラズマ物理学、レーザー工学、量子エレクトロニクス	
●授業内容 1. 原子分子物理学、 2. プラズマ診断工学、 3. プラズマ・表面相互作用、 4. レーザーアブレーション、 5. プラズマプロセスおよび材料プロセス応用	
●教科書 輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。	
●参考書 なし	
●成績評価の方法 セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 集積プロセスセミナーⅡ 2 A (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期
教員	豊田 浩孝 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい プラズマの科学技術に関連するテキストの輪講、学術論文の紹介、自分の研究の発表・討論を通し、プラズマ工学の基礎を学び、応用力を身につける。到達目標 1. プラズマの生成・診断・応用技術の基礎を理解し応用できる。 2. 当該分野の最新論文を理解し説明できる。	
●バックグラウンドとなる科目 プラズマ工学、電磁気学	
●授業内容 1. 放電物理 2. プラズマ物性 3. プラズマ・表面相互作用 4. プラズマ材料プロセス	
●教科書 輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。	
●参考書 菅井秀郎編著「プラズマエレクトロニクス」(オーム社) ; M. Lieberman and A. Lichtenberg, Principles of Plasma Discharges and Materials Processing (John Wiley, 1994) ; F. Chen and J. Chang, Lecture Notes on Principles of Plasma Processing (Kluwer Academic, 2003)	
●成績評価の方法 レポートあるいは口述試験	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 集積プロセスセミナーⅡ 2 A (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期
教員	河野 明廣 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい 集積プロセスの基盤技術である非平衡プラズマの応用に関わる諸問題を理解するため、専門書、学術論文を選び輪講する。	
●バックグラウンドとなる科目 電磁気学、プラズマ工学、真空電子工学、量子エレクトロニクス	
●授業内容 1. 非平衡プラズマの基本的性質 2. プラズマ中の原子分子過程 3. プラズマ診断技術 4. プラズマシミュレーション技術 5. プラズマプロセス	
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法 セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により評価する。	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 集積プロセスセミナーⅡ 2A (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期
教員	丹司 敬義 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	電子線、イオン線等の粒子線と物質との相互作用、および 電子、イオン機器と、その応用に関してテキスト、文献を用いて輪講する。
●バックグラウンドとなる科目	電磁気学I, II および 真空電子工学 固体電子工学
●授業内容	1. 電子線、イオン線と物質との相互作用 2. 電子線、イオン線による物質の構造解析および分析 3. 電子線、イオン線機器
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	口述試験

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 集積プロセスセミナーⅡ 2A (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期
教員	佐々木 浩一 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	集積プロセス工学を研究するために必要なテキストおよび文献を輪読・発表し、特に、プラズマプロセス工学およびレーザープロセス工学の基礎事項を習得すると共に関連分野の研究動向および研究課題について理解する。
●バックグラウンドとなる科目	電磁気学、プラズマ物理学、レーザー工学、量子エレクトロニクス
●授業内容	1. 原子分子物理学、 2. プラズマ診断工学、 3. プラズマ・表面相互作用、 4. レーザーアブレーション、 5. プラズマプロセスおよび材料プロセス応用
●教科書	輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。
●参考書	なし
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 集積プロセスセミナーⅡ 2B (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年後期
教員	豊田 浩幸 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	プラズマの科学技術に関連するテキストの輪講、学術論文の紹介、自分の研究の発表・討論を通じ、プラズマ工学の基礎を学び、応用力を身につける。到達目標 1. プラズマの生成・診断・応用技術の基礎を理解し応用できる。 2. 当該分野の最新論文を理解し説明できる。
●バックグラウンドとなる科目	プラズマ工学、電磁気学
●授業内容	1. 放電物理 2. プラズマ物性 3. プラズマ・表面相互作用 4. プラズマ材料プロセス
●教科書	輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。
●参考書	菅井秀郎編著「プラズマエレクトロニクス」(オーム社); M. Lieberman and A. Lichtenberg, Principles of Plasma Discharges and Materials Processing (John Wiley, 1994); F. Chen and J. Chang, Lecture Notes on Principles of Plasma Processing (Kluwer Academic, 2003)
●成績評価の方法	レポートあるいは口述試験

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 集積プロセスセミナーⅡ 2B (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年後期
教員	河野 明廣 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	集積プロセスの基盤技術である非平衡プラズマの応用に関わる諸問題を理解するため、専門書、学術論文を選び輪講する。
●バックグラウンドとなる科目	電磁気学、プラズマ工学、真空電子工学、量子エレクトロニクス
●授業内容	1. 非平衡プラズマの基本的性質 2. プラズマ中の原子分子過程 3. プラズマ診断技術 4. プラズマシミュレーション技術 5. プラズマプロセス
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により評価する。

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 集積プロセスセミナーⅡ 2 B (2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1 年後期
教員	丹司 敬義 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	電子線、イオン線等の粒子線と物質との相互作用、および 電子、イオン機器と、その応用に関してテキスト、文献を用いて輪講する。
●バックグラウンドとなる科目	電磁気学I、II および 真空電子工学 固体電子工学
●授業内容	1. 電子線、イオン線と物質との相互作用 2. 電子線、イオン線による物質の構造解析および分析 3. 電子線、イオン線機器
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	口述試験

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 集積プロセスセミナーⅡ 2 B (2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1 年後期
教員	佐々木 浩一 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	集積プロセス工学を研究するために必要なテキストおよび文献を輪読・発表し、特に、プラズマプロセス工学およびレーザープロセス工学の基礎事項を習得すると共に関連分野の研究動向および研究課題について理解する。
●バックグラウンドとなる科目	電磁気学、プラズマ物理学、レーザー工学、量子エレクトロニクス
●授業内容	1. 原子分子物理学、 2. プラズマ診断工学、 3. プラズマ・表面相互作用、 4. レーザーアブレーション、 5. プラズマプロセスおよび材料プロセス応用
●教科書	輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。
●参考書	なし
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 集積プロセスセミナーⅡ 2 C (2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 2 年前期
教員	豊田 浩孝 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	プラズマの科学技術に関連するテキストの輪講、学術論文の紹介、自分の研究の発表・討論を通し、プラズマノ工学の基礎を学び、応用力を身につける。到達目標 1. プラズマの生成・診断・応用技術の基礎を理解し応用できる。 2. 当該分野の最新論文を理解し説明できる。
●バックグラウンドとなる科目	プラズマ工学、電気磁気学
●授業内容	1. 放電物理 2. プラズマ物性 3. プラズマ・表面相互作用 4. プラズマ材料プロセス
●教科書	輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。
●参考書	菅井秀郎編著「プラズマエレクトロニクス」(オーム社) ; M. Lieberman and A. Lichtenberg, Principles of Plasma Discharges and Materials Processing (John Wiley, 1994) ; F. Chen and J. Chang, Lecture Notes on Principles of Plasma Processing (Kluwer Academic, 2003)
●成績評価の方法	レポートあるいは口述試験

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 集積プロセスセミナーⅡ 2 C (2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 2 年前期
教員	河野 明廣 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	集積プロセスの基盤技術である非平衡プラズマの応用に関わる諸問題を理解するため、専門書、学術論文を選び輪講する。
●バックグラウンドとなる科目	電気磁気学、プラズマ工学、真空電子工学、量子エレクトロニクス
●授業内容	1. 非平衡プラズマの基本的性質 2. プラズマ中の原子分子過程 3. プラズマ診断技術 4. プラズマシミュレーション技術 5. プラズマプロセス
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により評価する。

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー
	集積プロセスセミナーⅡ 2C (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 2年前期
教員	丹司 敬義 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	電子線の散乱と回折の基礎、および、電子顕微鏡法と電子回折法を用いた結晶構造解析に関するテキスト、文献を選び輪講する。
●バックグラウンドとなる科目	電磁気学I、II および 真空電子工学 物性基礎論、数学2
●授業内容	1. 電子線の固体との相互作用 2. 電子線の散乱と回折 3. 結晶と逆格子 4. 電子顕微鏡法と電子回折法を用いた構造解析
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	口述試験

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー
	集積プロセスセミナーⅡ 2C (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 2年前期
教員	佐々木 浩一 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	集積プロセス工学を研究するために必要なテキストおよび文献を輪読・発表し、特に、プラズマプロセス工学およびレーザープロセス工学の基礎事項を習得すると共に関連分野の研究動向および研究課題について理解する。
●バックグラウンドとなる科目	電磁気学、プラズマ物理学、レーザー工学、量子エレクトロニクス
●授業内容	1. 原子分子物理学 2. プラズマ診断工学 3. プラズマ・表面相互作用 4. レーザーアブレーション 5. プラズマプロセスおよび材料プロセス応用
●教科書	輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。
●参考書	なし
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー
	集積プロセスセミナーⅡ 2D (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 2年後期
教員	豊田 浩幸 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	プラズマの科学技術に関連するテキストの輪講、学術論文の紹介、自分の研究の発表・討論を通し、プラズマ工学の基礎を学び、応用力を身につける。到達目標 1. プラズマの生成・診断・応用技術の基礎を理解し応用できる。 2. 当該分野の最新論文を理解し説明できる。
●バックグラウンドとなる科目	プラズマ工学、電気磁気学
●授業内容	1. 放電物理 2. プラズマ物性 3. プラズマ・表面相互作用 4. プラズマ材料プロセス
●教科書	輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。
●参考書	菅井秀郎編著「プラズマエレクトロニクス」(オーム社)； M. Lieberman and A. Lichtenberg, Principles of Plasma Discharges and Materials Processing (John Wiley, 1994)； F. Chen and J. Chang, Lecture Notes on Principles of Plasma Processing (Kluwer Academic, 2003)
●成績評価の方法	レポートあるいは口述試験

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー
	集積プロセスセミナーⅡ 2D (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 2年後期
教員	河野 明廣 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	集積プロセスの基礎技術である非平衡プラズマの応用に関わる諸問題を理解するため、専門書、学術論文を選び輪講する。
●バックグラウンドとなる科目	電気磁気学、プラズマ工学、真空電子工学、量子エレクトロニクス
●授業内容	1. 非平衡プラズマの基本的性質 2. プラズマ中の原子分子過程 3. プラズマ診断技術 4. プラズマシミュレーション技術 5. プラズマプロセス
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により評価する。

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 集積プロセスセミナーⅡ 2D (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 2年後期
教員	丹司 敬義 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい 電子線の散乱と回折の基礎、および、電子顕微鏡法と電子回折法を用いた結晶構造解析に関するテキスト、文献を選び輪講する。	
●バックグラウンドとなる科目 電磁気学I, II および 真空電子工学 物性基礎論、数学2	
●授業内容 1. 電子線の固体との相互作用 2. 電子線の散乱と回折 3. 結晶と逆格子 4. 電子顕微鏡法と電子回折法を用いた構造解析	
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法 1. Interaction of electron beams and solids. 2. Electron scattering and diffraction. 3. Crystals and reciprocal lattice. 4. Structure analysis using electron microscopy and diffraction.	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 集積プロセスセミナーⅡ 2D (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 2年後期
教員	佐々木 浩一 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい 集積プロセス工学を研究するために必要なテキストおよび文献を輪読・発表し、特に、プラズマプロセス工学およびレーザープロセス工学の基礎事項を習得すると共に関連分野の研究動向および研究課題について理解する。	
●バックグラウンドとなる科目 電磁気学、プラズマ物理学、レーザー工学、量子エレクトロニクス	
●授業内容 1. 原子分子物理学、 2. プラズマ診断工学、 3. プラズマ・表面相互作用、 4. レーザーアブレーション、 5. プラズマプロセスおよび材料プロセス応用	
●教科書 輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。	
●参考書 なし	
●成績評価の方法 セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 集積プロセスセミナーⅡ 2E (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 3年前期
教員	豊田 浩孝 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい プラズマの科学技術に関連するテキストの輪講、学術論文の紹介、自分の研究の発表・討論を通し、プラズマ工学の基礎を学び、応用力を身につける。到達目標 1. プラズマの生成・診断・応用技術の基礎を理解し応用できる。 2. 当該分野の最新論文を理解し説明できる。	
●バックグラウンドとなる科目 プラズマ工学、電磁気学	
●授業内容 1. 放電物理 2. プラズマ物性 3. プラズマ・表面相互作用 4. プラズマ材料プロセス	
●教科書 輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。	
●参考書 菅井秀郎編著「プラズマエレクトロニクス」(オーム社) ; M. Lieberman and A. Lichtenberg, Principles of Plasma Discharges and Materials Processing (John Wiley, 1994) ; F. Chen and J. Chang, Lecture Notes on Principles of Plasma Processing (Kluwer Academic, 2003)	
●成績評価の方法 レポートあるいは口述試験	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 集積プロセスセミナーⅡ 2E (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 3年前期
教員	河野 明廣 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい 集積プロセスの基盤技術である非平衡プラズマの応用に関わる諸問題を理解するため、専門書、学術論文を選び輪講する。	
●バックグラウンドとなる科目 電磁気学、プラズマ工学、真空電子工学、量子エレクトロニクス	
●授業内容 1. 非平衡プラズマの基本的性質 2. プラズマ中の原子分子過程 3. プラズマ診断技術 4. プラズマシミュレーション技術 5. プラズマプロセス	
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法 セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により評価する。	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 集積プロセスセミナーⅡ 2 E (2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 3 年前期
教員	丹司 敬義 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	電子線の散乱と回折の基礎、および、電子顕微鏡法と電子回折法を用いた結晶構造解析に関するテキスト、文献を選び輪講する。
●バックグラウンドとなる科目	電磁気学Ⅰ, Ⅱ および 真空電子工学 物性基礎論、数学 2
●授業内容	1. 電子線の固体との相互作用 2. 電子線の散乱と回折 3. 結晶と逆格子 4. 電子顕微鏡法と電子回折法を用いた構造解析
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	口述試験

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 集積プロセスセミナーⅡ 2 E (2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 3 年前期
教員	佐々木 浩一 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	集積プロセス工学を研究するために必要なテキストおよび文献を輪読・発表し、特に、プラズマプロセス工学およびレーザープロセス工学の基礎事項を習得すると共に関連分野の研究動向および研究課題について理解する。
●バックグラウンドとなる科目	電磁気学、プラズマ物理学、レーザー工学、量子エレクトロニクス
●授業内容	1. 原子分子物理学、 2. プラズマ診断工学、 3. プラズマ・表面相互作用、 4. レーザーアブレーション、 5. プラズマプロセスおよび材料プロセス応用
●教科書	輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。
●参考書	なし
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 情報デバイスセミナーⅠ 2 A (2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1 年前期
教員	網島 滋 教授 岩田 聡 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	情報記録・記憶に関連した磁性薄膜材料・デバイスについて、最新の文献を用いて輪講をする。
●バックグラウンドとなる科目	電気磁気学、電気物性基礎論、固体電子工学、磁性体工学
●授業内容	1. 磁気記録媒体 2. 磁気ヘッド 3. 高速スイッチング材料
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	口述試験

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 情報デバイスセミナーⅠ 2 A (2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1 年前期
教員	澤木 宣彦 教授 山口 雅史 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	半導体エレクトロニクスに関する諸問題を理解するため下記の課題に関するテキスト、学術論文などを選び輪講する。
●バックグラウンドとなる科目	固体電子工学、半導体工学、電子デバイス光学
●授業内容	1. 半導体の電気的性質 2. 半導体の光学的性質 3. 半導体の結晶成長 4. 電子デバイス 5. 光デバイス 6. 量子デバイス、ナノエレクトロニクス
●教科書	教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。
●参考書	なし
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする。 履修条件・注意事項等：特になし。 質問への対応：セミナー時に対応する。

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 情報デバイスセミナー12A (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期
教員	中里 和郎 教授 内山 剛 准教授
備考	
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>マイクロセンサ等のアナログ情報デバイスの集積・システム化技術に関する知識を習得するために適当なテキストを用いて論講する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>磁性体工学, 半導体工学, 電子回路工学</p> <p>●授業内容</p> <p>1. マイクロセンサ 2. アナログCMOS集積回路 3. A/D変換器 4. マイクロセンサ応用計測システム</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●成績評価の方法</p> <p>レポート</p>	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 情報デバイスセミナー12A (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期
教員	田中 成泰 准教授
備考	
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>電子線の散乱と回折の基礎、および、電子顕微鏡法と電子回折法を用いた結晶構造解析に関するテキスト、文献を選び論講する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>固体電子工学, 電子デバイス光学</p> <p>●授業内容</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●成績評価の方法</p> <p>口述試験</p>	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 情報デバイスセミナー12B (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年後期
教員	網島 滋 教授 岩田 聡 教授
備考	
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>情報記録・記憶に関連した磁性薄膜材料・デバイスについて、最新の文献を用いて論講する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>電気磁気学, 電気物性基礎論, 固体電子工学, 磁性体工学</p> <p>●授業内容</p> <p>1. 光磁気記録 2. 熱磁気記録過程 3. 磁気光学効果</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●成績評価の方法</p> <p>口述試験</p>	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 情報デバイスセミナー12B (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年後期
教員	澤木 宣彦 教授 山口 雅史 准教授
備考	
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>半導体エレクトロニクスに関する諸問題を理解するため下記の課題に関するテキスト、学術論文などを選び論講する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>固体電子工学, 半導体工学, 電子デバイス光学</p> <p>●授業内容</p> <p>1. 半導体の電気的性質 2. 半導体の光学的性質 3. 半導体の結晶成長 4. 電子デバイス 5. 光デバイス 6. 量子デバイス, ナノエレクトロニクス</p> <p>●教科書</p> <p>教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。</p> <p>●参考書</p> <p>なし</p> <p>●成績評価の方法</p> <p>セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする。</p> <p>履修条件・注意事項等：特になし。</p> <p>質問への対応：セミナー時に対応する。</p>	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー
	情報デバイスセミナーⅠ 2B (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年後期
教員	中里 和郎 教授 内山 剛 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	マイクロセンサ等のアナログ情報デバイスの集積・システム化技術に関する知識を習得するために適当なテキスト・文献を用いて輪講する。
●バックグラウンドとなる科目	磁性体工学, 半導体工学, 電子回路工学
●授業内容	1. マイクロセンサデバイス 2. アナログCMOS集積回路 3. A/D変換器 4. マイクロセンサ応用計測システム
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	レポート

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー
	情報デバイスセミナーⅠ 2B (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年後期
教員	田中 成泰 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	微細な原子構造や電磁気構造の高分解能観察法および高精度計測法の基礎と材料研究への応用に関するテキストや文献を選び輪講する。
●バックグラウンドとなる科目	固体電子工学, 電子デバイス光学
●授業内容	1. 高分解能電子顕微鏡法の基礎と応用 2. 分析電子顕微鏡法の基礎と応用 3. 走査電子顕微鏡法の基礎と応用 4. 電子線ホログラフィの基礎と応用
●教科書	輪講する教科書については、年度初めに適宜選定する。
●参考書	なし
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする。

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー
	情報デバイスセミナーⅠ 2C (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 2年前期
教員	網島 滋 教授 岩田 聡 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	情報記録・記憶デバイスに関連した磁性薄膜材料について、テキスト、文献を用いて輪講を行う。
●バックグラウンドとなる科目	電気磁気学, 電気物性基礎論, 固体電子工学, 磁性体工学
●授業内容	1. 微細加工磁性膜の性質 2. 微細加工磁性膜の応用 3. パターン記録媒体
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	口述試験

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー
	情報デバイスセミナーⅠ 2C (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 2年前期
教員	澤木 宣彦 教授 山口 雅史 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	半導体エレクトロニクスに関する諸問題を理解するため下記の課題に関するテキスト、学術論文などを選び輪講する。
●バックグラウンドとなる科目	固体電子工学, 半導体工学, 電子デバイス光学
●授業内容	1. 半導体の電気的性質 2. 半導体の光学的性質 3. 半導体の結晶成長 4. 電子デバイス 5. 光デバイス 6. 量子デバイス, ナノエレクトロニクス
●教科書	教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。
●参考書	なし
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする。 履修条件・注意事項等：特になし。 質問への対応：セミナー時に対応する。

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 情報デバイスセミナーⅠ2C (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 2年前期
教員	中里 和郎 教授 内山 剛 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい マイクロセンサ等のアナログ情報デバイスの集積・システム化技術に関する知識を習得するために適当なテキスト・文献を用いて輪講する。	
●バックグラウンドとなる科目 磁性体工学, 半導体工学, 電子回路工学	
●授業内容 1. マイクロセンサデバイス 2. アナログCMOS集積回路 3. A/D 変換器 4. マイクロセンサ応用計測システム	
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法 レポート	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 情報デバイスセミナーⅠ2C (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 2年前期
教員	田中 成泰 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい 電子線の散乱と回折の基礎、および、電子顕微鏡法と電子回折法を用いた結晶構造解析に関するテキスト、文献を選び輪講する。	
●バックグラウンドとなる科目 固体電子工学, 電子デバイス光学	
●授業内容 1. 電子線の固体との相互作用 2. 電子線の散乱と回折 3. 結晶と逆格子 4. 電子顕微鏡法と電子回折法を用いた構造解析	
●教科書 輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する	
●参考書 なし	
●成績評価の方法 セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする。	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 情報デバイスセミナーⅠ2D (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 2年後期
教員	網島 滋 教授 岩田 聡 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい 情報記録・記憶デバイスに関連した磁性薄膜材料について、テキスト、文献を用いて輪講を行う。	
●バックグラウンドとなる科目 電気磁気学, 電気物性基礎論, 固体電子工学, 磁性体工学	
●授業内容 1. スピン注入 2. スピン注入磁化反転	
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法 口述試験	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 情報デバイスセミナーⅠ2D (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 2年後期
教員	澤木 宣彦 教授 山口 雅史 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい 半導体エレクトロニクスに関する諸問題を理解するため下記の課題に関するテキスト、学術論文などを選び輪講する。	
●バックグラウンドとなる科目 固体電子工学, 半導体工学, 電子デバイス光学	
●授業内容 1. 半導体の電気的性質 2. 半導体の光学的性質 3. 半導体の結晶成長 4. 電子デバイス 5. 光デバイス 6. 量子デバイス, ナノエレクトロニクス	
●教科書 教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。	
●参考書 なし	
●成績評価の方法 セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする。 履修条件・注意事項等：特になし。 質問への対応：セミナー時に対応する。	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー
	情報デバイスセミナー I 2 D (2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 2 年後期
教員	中里 和郎 教授 内山 剛 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	マイクロセンサ等のアナログ情報デバイスの集積・システム化技術に関する知識を習得するために適当なテキスト・文献を用いて輪講する。
●バックグラウンドとなる科目	磁性体工学, 半導体工学, 電子回路工学
●授業内容	1. マイクロセンサデバイス 2. アナログCMOS集積回路 3. A/D 変換器 4. マイクロセンサ応用計測システム
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	レポート

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー
	情報デバイスセミナー I 2 D (2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 2 年後期
教員	田中 成泰 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	微細な原子構造や電磁気構造の高分解能観察および高精度計測法の基礎と材料研究への応用に関するテキストや文献を選び輪講する。
●バックグラウンドとなる科目	固体電子工学, 電子デバイス光学
●授業内容	1. 高分解能電子顕微鏡法の基礎と応用 2. 分析電子顕微鏡法の基礎と応用 3. 走査電子顕微鏡法の基礎と応用 4. 電子線ホログラフィの基礎と応用
●教科書	輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。
●参考書	なし
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする。

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー
	情報デバイスセミナー I 2 E (2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 3 年前期
教員	綱島 滋 教授 岩田 聡 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	情報記録・記憶デバイスに関連した磁性薄膜材料について、テキスト、文献を用いて輪講を行う。
●バックグラウンドとなる科目	電気磁気学, 電気物性基礎論, 固体電子工学, 磁性体工学
●授業内容	1. スピン注入磁化反転を用いた磁気ランダムアクセスメモリ 2. 近接場光学ヘッドを用いたハイブリッド磁気記録
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	口述試験

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー
	情報デバイスセミナー I 2 E (2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 3 年前期
教員	澤木 宣彦 教授 山口 雅史 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	半導体エレクトロニクスに関する諸問題を理解するため下記の課題に関するテキスト、学術論文などを遊び輪講する。
●バックグラウンドとなる科目	固体電子工学, 半導体工学, 電子デバイス光学
●授業内容	1. 半導体の電気的性質 2. 半導体の光学的性質 3. 半導体の結晶成長 4. 電子デバイス 5. 光デバイス 6. 量子デバイス, ナノエレクトロニクス
●教科書	教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。
●参考書	なし
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする。 履修条件・注意事項等：特になし。 質問への対応：セミナー時に対応する。

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 情報デバイスセミナーⅠ2E (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 3年前期
教員	中里 和郎 教授 内山 剛 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	マイクロセンサ等のアナログ情報デバイスの集積・システム化技術に関する知識を習得するために適当なテキスト・文献を用いて輪講する。
●バックグラウンドとなる科目	磁性体工学, 半導体工学, 電子回路工学
●授業内容	1. マイクロセンサデバイス 2. アナログCMOS集積回路 3. A/D 変換器 4. マイクロセンサ応用計測システム
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	レポート

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 情報デバイスセミナーⅠ2E (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 3年前期
教員	田中 成泰 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	電子線の散乱と回折の基礎、および、電子顕微鏡法と電子回折法を用いた結晶構造解析に関するテキスト、文献を選び輪講する。
●バックグラウンドとなる科目	固体電子工学, 電子デバイス光学
●授業内容	1. 電子線の固体との相互作用 2. 電子線の散乱と回折 3. 結晶と逆格子 4. 電子顕微鏡法と電子回折法を用いた構造解析
●教科書	輪講する教科書については、年度初めに適宜選定する。
●参考書	なし
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする。

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 情報デバイスセミナーⅡ2A (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期
教員	網島 滋 教授 岩田 聡 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	磁性材料とその応用に関して、テキスト、文献を用いて輪講を行う
●バックグラウンドとなる科目	電気磁気学, 電気物性基礎論, 固体電子工学, 磁性体工学
●授業内容	1. 薄膜の構造と磁性 2. 磁気異方性と磁歪 3. 磁区構造と磁化機構 4. スピンエレクトロニクス 5. 磁性材料の微細加工技術
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	口述試験

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 情報デバイスセミナーⅡ2A (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期
教員	澤木 宣彦 教授 山口 雅史 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	半導体エレクトロニクスに関する諸問題を理解するため下記の課題に関するテキスト、学術論文などを選び輪講する。
●バックグラウンドとなる科目	固体電子工学, 半導体工学, 電子デバイス光学
●授業内容	1. 半導体の電気的性質 2. 半導体の光学的性質 3. 半導体の結晶成長 4. 電子デバイス 5. 光子デバイス 6. 量子デバイス, ナノエレクトロニクス
●教科書	教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。
●参考書	なし
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする。 履修条件・注意事項等：特になし。 質問への対応：セミナー時に対応する。

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 情報デバイスセミナーⅡ 2 A (2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1 年前期
教員	中里 和郎 教授 内山 剛 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	ユビキタセンシングの基盤となるアナログ情報デバイスのシステムインテグレーション技術を理解するため、適当な文献を用いて輪講を行う。
●バックグラウンドとなる科目	磁性体工学, 半導体工学, 電子回路工学
●授業内容	1 マイクロセンサ 2 アナログ集積回路 3 ユビキタセンシング
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	レポート

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 情報デバイスセミナーⅡ 2 A (2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1 年前期
教員	田中 成泰 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	電子線の散乱と回折の基礎、および、電子顕微鏡法と電子回折法を用いた結晶構造解析に関するテキスト、文献を選び輪講する。
●バックグラウンドとなる科目	固体電子工学, 電子デバイス光学
●授業内容	1. 電子線の固体との相互作用 2. 電子線の散乱と回折 3. 結晶と逆格子 4. 電子顕微鏡法と電子回折法を用いた構造解析
●教科書	輪講する教科書については、年度初めに適宜選定する
●参考書	なし
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする。

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 情報デバイスセミナーⅡ 2 B (2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1 年後期
教員	網島 滋 教授 岩田 聡 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	磁性材料とその応用に関して、テキスト、文献を用いて輪講を行う。
●バックグラウンドとなる科目	電気磁気学, 電気物性基礎論, 固体電子工学, 磁性体工学
●授業内容	1. 薄膜の構造と磁性 2. 磁気異方性と磁歪 3. 磁区構造と磁化機構 4. スピンエレクトロニクス 5. 磁性材料の微細加工技術
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	口述試験

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 情報デバイスセミナーⅡ 2 B (2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1 年後期
教員	澤木 宜彦 教授 山口 雅史 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	半導体エレクトロニクスに関する諸問題を理解するため下記の課題に関するテキスト、学術論文などを運び輪講する。
●バックグラウンドとなる科目	固体電子工学, 半導体工学, 電子デバイス光学
●授業内容	1. 半導体の電気的性質 2. 半導体の光学的性質 3. 半導体の結晶成長 4. 電子デバイス 5. 光デバイス 6. 量子デバイス, ナノエレクトロニクス
●教科書	教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。
●参考書	なし
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする。 履修条件・注意事項等：特になし。 質問への対応：セミナー時に対応する。

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 情報デバイスセミナーⅡ 2 B (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年後期
教員	中里 和郎 教授 内山 剛 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	
ユビキタスセンシングの基盤となるアナログ情報デバイスのシステムインテグレーション技術を理解するため、適当な文献を用いて輪講を行う。	
●バックグラウンドとなる科目	
磁性体工学, 半導体工学, 電子回路工学	
●授業内容	
1 マイクロセンサ 2 アナログ集積回路 3 ユビキタスセンシング	
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	
レポート	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 情報デバイスセミナーⅡ 2 B (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年後期
教員	田中 成泰 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	
微細な原子構造や電磁気構造の高分解能観察法および高精度計測法の基礎と材料研究への応用に関するテキストや文献を選び輪講する。	
●バックグラウンドとなる科目	
固体電子工学, 電子デバイス光学	
●授業内容	
1. 高分解能電子顕微鏡法の基礎と応用 2. 分析電子顕微鏡法の基礎と応用 3. 走査電子顕微鏡法の基礎と応用 4. 電子線ホログラフィの基礎と応用	
●教科書	
輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。	
●参考書	
なし	
●成績評価の方法	
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする。	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 情報デバイスセミナーⅡ 2 C (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 2年前期
教員	網島 滋 教授 岩田 聡 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	
磁性材料とその応用に関して、テキスト、文献を用いて輪講を行う。	
●バックグラウンドとなる科目	
電気磁気学, 電気物性基礎論, 固体電子工学, 磁性体工学	
●授業内容	
1. 薄膜の構造と磁性 2. 磁気異方性と磁歪 3. 磁区構造と磁化機構 4. スピンエレクトロニクス 5. 磁性材料の微細加工技術	
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	
口述試験	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 情報デバイスセミナーⅡ 2 C (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 2年前期
教員	澤木 宣彦 教授 山口 雅史 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	
半導体エレクトロニクスに関する諸問題を理解するため下記の課題に関するテキスト、学術論文などを選び輪講する。	
●バックグラウンドとなる科目	
固体電子工学, 半導体工学, 電子デバイス光学	
●授業内容	
1. 半導体の電気的性質 2. 半導体の光学的性質 3. 半導体の結晶成長 4. 電子デバイス 5. 光デバイス 6. 量子デバイス, ナノエレクトロニクス	
●教科書	
教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。	
●参考書	
なし	
●成績評価の方法	
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする。	
履修条件・注意事項等：特になし。	
質問への対応：セミナー時に対応する。	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 情報デバイスセミナーⅡ 2C (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 2年前期
教員	中里 和郎 教授 内山 剛 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	ユビキタスセンシングの基盤となるアナログ情報デバイスのシステムインテグレーション技術を理解するため、適当な文献を用いて輪講を行う。
●バックグラウンドとなる科目	磁性体工学, 半導体工学, 電子回路工学
●授業内容	1 マイクロセンサ 2 アナログ集積回路 3 ユビキタスセンシング
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	レポート

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 情報デバイスセミナーⅡ 2C (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 2年前期
教員	田中 成泰 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	電子線の散乱と回折の基礎、および、電子顕微鏡法と電子回折法を用いた結晶構造解析に関するテキスト、文献を選び輪講する。
●バックグラウンドとなる科目	固体電子工学, 電子デバイス光学
●授業内容	1. 電子線の固体との相互作用 2. 電子線の散乱と回折 3. 結晶と逆格子 4. 電子顕微鏡法と電子回折法を用いた構造解析
●教科書	輪講する教科書については、年度初めに適宜選定する。
●参考書	なし
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする。

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 情報デバイスセミナーⅡ 2D (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 2年後期
教員	綱島 滋 教授 岩田 聡 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	磁性材料とその応用に関して、テキスト、文献を用いて輪講を行う。
●バックグラウンドとなる科目	電気磁気学, 電気物性基礎論, 固体電子工学, 磁性体工学
●授業内容	1. 薄膜の構造と磁性 2. 磁気異方性と磁歪 3. 磁区構造と磁化機構 4. スピンエレクトロニクス 5. 磁性材料の微細加工技術
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	口述試験

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 情報デバイスセミナーⅡ 2D (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 2年後期
教員	澤木 宣彦 教授 山口 雅史 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	半導体エレクトロニクスに関する諸問題を理解するため下記の課題に関するテキスト、学術論文などを選び輪講する。
●バックグラウンドとなる科目	固体電子工学, 半導体工学, 電子デバイス光学
●授業内容	1. 半導体の電気的性質 2. 半導体の光学的性質 3. 半導体の結晶成長 4. 電子デバイス 5. 光デバイス 6. 量子デバイス, ナノエレクトロニクス
●教科書	教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。
●参考書	なし
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする。 履修条件・注意事項等：特になし。 質問への対応：セミナー時に対応する。

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 情報デバイスセミナーⅡ 2D (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 2年後期
教員	中里 和郎 教授 内山 剛 准教授
備考	
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>ユビキタスセンシングの基盤となるアナログ情報デバイスのシステムインテグレーション技術を理解するため、適当な文献を用いて輪講を行う。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>磁性体工学, 半導体工学, 電子回路工学</p> <p>●授業内容</p> <p>1 マイクロセンサ 2 アナログ集積回路 3 ユビキタスセンシング</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●成績評価の方法</p> <p>レポート</p>	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 情報デバイスセミナーⅡ 2D (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 2年後期
教員	田中 成泰 准教授
備考	
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>微細な原子構造や電磁気構造の高分解能観察法および高精度計測法の基礎と材料研究への応用に関するテキストや文献を選び輪講する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>固体電子工学, 電子デバイス光学</p> <p>●授業内容</p> <p>1. 高分解能電子顕微鏡法の基礎と応用 2. 分析電子顕微鏡法の基礎と応用 3. 走査電子顕微鏡法の基礎と応用 4. 電子線ホログラフィの基礎と応用</p> <p>●教科書</p> <p>輪講する教科書については、年度初めに適宜選定する。</p> <p>●参考書</p> <p>なし</p> <p>●成績評価の方法</p> <p>セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする。</p>	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 情報デバイスセミナーⅡ 2E (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 3年前期
教員	綱島 滋 教授 岩田 聡 教授
備考	
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>磁性材料とその応用に関して、テキスト、文献を用いて輪講を行う。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>電気磁気学, 電気物性基礎論, 固体電子工学, 磁性体工学</p> <p>●授業内容</p> <p>1. 薄膜の構造と磁性 2. 磁気異方性と磁歪 3. 磁区構造と磁化機構 4. スピンエレクトロニクス 5. 磁性材料の微細加工技術</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●成績評価の方法</p> <p>口述試験</p>	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 情報デバイスセミナーⅡ 2E (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 3年前期
教員	澤木 宣彦 教授 山口 雅史 准教授
備考	
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>半導体エレクトロニクスに関する諸問題を理解するため下記の課題に関するテキスト、学術論文などを選び輪講する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>固体電子工学, 半導体工学, 電子デバイス光学</p> <p>●授業内容</p> <p>1. 半導体の電気的性質 2. 半導体の光学的性質 3. 半導体の結晶成長 4. 電子デバイス 5. 光デバイス 6. 量子デバイス, ナノエレクトロニクス</p> <p>●教科書</p> <p>教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。</p> <p>●参考書</p> <p>なし</p> <p>●成績評価の方法</p> <p>セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする。</p> <p>履修条件・注意事項等：特になし。</p> <p>質問への対応：セミナー時に対応する。</p>	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 情報デバイスセミナーⅡ 2 E (2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 3 年前期
教員	中里 和郎 教授 内山 剛 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	ユビキタスセンシングの基盤となるアナログ情報デバイスのシステムインテグレーション技術を理解するため、適当な文献を用いて輪講を行う。
●バックグラウンドとなる科目	磁性体工学, 半導体工学, 電子回路工学
●授業内容	1 マイクロセンサ 2 アナログ集積回路 3 ユビキタスセンシング
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	レポート

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 情報デバイスセミナーⅡ 2 E (2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 3 年前期
教員	田中 成泰 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	電子線の散乱と回折の基礎、および、電子顕微鏡法と電子回折法を用いた結晶構造解析に関するテキスト、文献を選び輪講する。
●バックグラウンドとなる科目	固体電子工学, 電子デバイス光学
●授業内容	1. 電子線の固体との相互作用 2. 電子線の散乱と回折 3. 結晶と逆格子 4. 電子顕微鏡法と電子回折法を用いた構造解析
●教科書	輪講する教科書については、年度初めに適宜選定する。
●参考書	なし
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々 60%、40%とする

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー ナノデバイス工学セミナー 2 A (2 単位)	前期課程
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1 年前期	量子工学専攻 1 年前期
教員	水谷 孝 教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい	ナノデバイスに関する諸問題を理解するために下記の課題に関するテキスト、学術論文などを選び輪講する。 達成目標 1. ナノ構造における重要な物理的性質の理解を基にナノデバイスの動作原理を理解、説明できる。 2. 重要なナノデバイスに関し、その特性を実験的、理論的に解析出来る。	
●バックグラウンドとなる科目	固体電子工学, 半導体デバイス工学, 量子力学	
●授業内容	1. ナノ構造の電子輸送現象 2. ナノ構造の光学的性質 3. ナノデバイスの動作原理 4. ナノデバイスの作製工程 5. ナノデバイスの高周波特性	
●教科書	輪講する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて適宜選定する。	
●参考書	なし	
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー ナノデバイス工学セミナー 2 B (2 単位)	前期課程
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1 年後期	量子工学専攻 1 年後期
教員	水谷 孝 教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい	ナノデバイスに関する諸問題を理解するために下記の課題に関するテキスト、学術論文などを選び輪講する。 達成目標 1. ナノ構造における重要な物理的性質の理解を基にナノデバイスの動作原理を理解、説明できる。 2. 重要なナノデバイスに関し、その特性を実験的、理論的に解析出来る。	
●バックグラウンドとなる科目	固体電子工学, 半導体デバイス工学, 量子力学	
●授業内容	1. ナノ構造の電子輸送現象 2. ナノ構造の光学的性質 3. ナノデバイスの動作原理 4. ナノデバイスの作製工程 5. ナノデバイスの高周波特性	
●教科書	輪講する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて適宜選定する。	
●参考書	なし	
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	ナノデバイス工学セミナー2C (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 2年前期	量子工学専攻 2年前期
教員	水谷 孝 教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
ナノデバイスに関する諸問題を理解するために下記の課題に関するテキスト、学術論文などを選び輪講する。達成目標 1. ナノ構造における重要な物理的性質の理解を基にナノデバイスの動作原理を理解、説明できる。 2. 重要なナノデバイスに関し、その特性を実験的、理論的に解析出来る。		
●バックグラウンドとなる科目		
固体電子工学、半導体デバイス工学、量子力学		
●授業内容		
1. ナノ構造の電子輸送現象 2. ナノ構造の光学的性質 3. ナノデバイスの動作原理 4. ナノデバイスの作製工程 5. ナノデバイスの高周波特性		
●教科書		
輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて適宜選定する。		
●参考書		
なし		
●成績評価の方法		
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	ナノデバイス工学セミナー2D (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 2年後期	量子工学専攻 2年後期
教員	水谷 孝 教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
ナノデバイスに関する諸問題を理解するために下記の課題に関するテキスト、学術論文などを選び輪講する。達成目標 1. ナノ構造における重要な物理的性質の理解を基にナノデバイスの動作原理を理解、説明できる。 2. 重要なナノデバイスに関し、その特性を実験的、理論的に解析出来る。		
●バックグラウンドとなる科目		
固体電子工学、半導体デバイス工学、量子力学		
●授業内容		
1. ナノ構造の電子輸送現象 2. ナノ構造の光学的性質 3. ナノデバイスの動作原理 4. ナノデバイスの作製工程 5. ナノデバイスの高周波特性		
●教科書		
輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて適宜選定する。		
●参考書		
なし		
●成績評価の方法		
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	ナノデバイス工学セミナー2E (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 3年前期	量子工学専攻 3年前期
教員	水谷 孝 教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
ナノデバイスに関する諸問題を理解するために下記の課題に関するテキスト、学術論文などを選び輪講する。達成目標 1. ナノ構造における重要な物理的性質の理解を基にナノデバイスの動作原理を理解、説明できる。 2. 重要なナノデバイスに関し、その特性を実験的、理論的に解析出来る。		
●バックグラウンドとなる科目		
固体電子工学、半導体デバイス工学、量子力学		
●授業内容		
1. ナノ構造の電子輸送現象 2. ナノ構造の光学的性質 3. ナノデバイスの動作原理 4. ナノデバイスの作製工程 5. ナノデバイスの高周波特性		
●教科書		
輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて適宜選定する。		
●参考書		
なし		
●成績評価の方法		
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	量子集積デバイス工学セミナー2A (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年前期	量子工学専攻 1年前期
教員	藤巻 朝 教授 井上 真澄 講師	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
超伝導現象に関するテキスト、文献を選び輪講する。		
●バックグラウンドとなる科目		
量子力学、固体電子工学		
●授業内容		
1. 超伝導現象 2. 超伝導の巨視的振る舞い 3. 超伝導の微視理論		
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法		
レポート		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	量子集積デバイス工学セミナー2 B (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年後期	量子工学専攻 1年後期
教員	藤巻 朗 教授 井上 真澄 講師	
備考		
●本講座の目的およびねらい	高温超伝導に関するテキスト、文献を選び輪講する。	
●バックグラウンドとなる科目	量子力学、固体電子工学	
●授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高温超伝導体の特徴 2. 異方的伝導特性 3. 固有ジョセフソン接合 	
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法	レポート	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	量子集積デバイス工学セミナー2 C (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 2年前期	量子工学専攻 2年前期
教員	藤巻 朗 教授 井上 真澄 講師	
備考		
●本講座の目的およびねらい	ジョセフソン接合に関するテキスト、文献を選び輪講する。	
●バックグラウンドとなる科目	量子力学、固体電子工学	
●授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. ジョセフソン素子の分類 2. ジョセフソン効果 <ol style="list-style-type: none"> 2. 1 直流ジョセフソン効果 2. 2 交流ジョセフソン効果 2. 3 磁場応答 	
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法	レポート	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	量子集積デバイス工学セミナー2 D (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 2年後期	量子工学専攻 2年後期
教員	藤巻 朗 教授 井上 真澄 講師	
備考		
●本講座の目的およびねらい	ジョセフソン接合の応用技術に関するテキスト、文献を選び輪講する。	
●バックグラウンドとなる科目	量子力学、固体電子工学	
●授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. ジョセフソン接合 2. squid 3. 単一超束量子回路 4. X線検出器 	
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法	レポート	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	量子集積デバイス工学セミナー2 E (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 3年前期	量子工学専攻 3年前期
教員	藤巻 朗 教授 井上 真澄 講師	
備考		
●本講座の目的およびねらい	超伝導エレクトロニクスに関するテキスト、文献を選び輪講する。	
●バックグラウンドとなる科目	量子力学、固体電子工学	
●授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 超伝導現象 2. ジョセフソン接合 3. ジョセフソン集積回路 	
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法	レポート	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	光子工学セミナー 2 A (2 単位)	
対象専攻・分野 開講時期	量子工学専攻 1 年前期	電子工学分野 1 年前期
教員	川瀬 晃道 教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい 光子工学のより高度な内容と関連する諸問題を理解していくために、下記の課題に関する最新の学術論文を選び輪講する。		
●バックグラウンドとなる科目 量子力学、電磁気学、光学、分光学		
●授業内容 1. レーザーの光通信への応用 2. レーザーの量子光学への応用 3. レーザーの光計測への応用		
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法 レポート		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	光子工学セミナー 2 B (2 単位)	
対象専攻・分野 開講時期	量子工学専攻 1 年後期	電子工学分野 1 年後期
教員	川瀬 晃道 教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい 光子工学のより高度な内容と関連する諸問題を理解していくために、下記の課題に関する最新の学術論文を選び輪講する。		
●バックグラウンドとなる科目 量子力学、電磁気学、光学、分光学		
●授業内容 1. レーザーの光通信への応用 2. レーザーの量子光学への応用 3. レーザーの光計測への応用		
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法 レポート		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	光子工学セミナー 2 C (2 単位)	
対象専攻・分野 開講時期	量子工学専攻 2 年前期	電子工学分野 2 年前期
教員	川瀬 晃道 教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい 光子工学のより高度な内容と関連する諸問題を理解していくために、下記の課題に関する最新の学術論文を選び輪講する。		
●バックグラウンドとなる科目 量子力学、電磁気学、光学、分光学		
●授業内容 1. THz 波の生成と応用 2. 超短パルス光の生成と応用		
●教科書		
●参考書 無し		
●成績評価の方法 レポート		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	光子工学セミナー 2 D (2 単位)	
対象専攻・分野 開講時期	量子工学専攻 2 年後期	電子工学分野 2 年後期
教員	川瀬 晃道 教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい 光子工学のより高度な内容と関連する諸問題を理解していくために、下記の課題に関する最新の学術論文を選び輪講する。		
●バックグラウンドとなる科目 量子力学、電磁気学、光学、分光学		
●授業内容 1. THz 波の生成と応用 2. 超短パルス光の生成と応用		
●教科書		
●参考書 なし		
●成績評価の方法 レポート		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 光量子工学セミナー2E (2単位)	前期課程
対象専攻・分野 開講時期	量子工学専攻 3年前期	電子工学分野 3年前期
教員	川瀬 晃道 教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい 光量子工学のより高度な内容と関連する諸問題を理解していくために、下記の課題に関する最新の学術論文を選び輪講する。		
●バックグラウンドとなる科目 量子力学、電磁気学、光学、分光学		
●授業内容 1. TPO波の応用 2. 超短パルス光の応用		
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法 レポート		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 総合工学科目 実習 実験指導体験実習 1 (1単位)	
対象専攻・分野 開講時期	全専攻・分野共通 1年前期後期 2年前期後期	
教員	松村 年郎 教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい 高度総合工学創造実験において、企業からのDirecting Professorと学部及び前期課程の学生の間に立ち、指導の体験を通して、後期課程の学生の教育と研究及び指導者としての養成に役立つ。		
●バックグラウンドとなる科目 特になし。		
●授業内容 高度総合工学創造実験において、実験結果の解釈、とりまとめ、発表・展示の指導をDirecting Professorの指導の元におこなう。		
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法 とりまとめと指導性		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 総合工学科目 実習 実験指導体験実習 2 (1単位)	
対象専攻・分野 開講時期	全専攻・分野共通 1年前期後期 2年前期後期	
教員	山根 隆 教授 田淵 雅夫 准教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー等の最先端理工学実験において、受講生の実験指導を通じて、後期課程学生の研究・教育及び指導者としての養成に役立つ。		
●バックグラウンドとなる科目 特になし。		
●授業内容 最先端理工学実験において、担当教官の下で課題研究および独創研究の指導を行う。		
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法 とりまとめと指導性、面接		